

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月22日
【事業年度】	第25期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	株式会社光通信
【英訳名】	HIKARI TSUSHIN, INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 玉村 剛史
【本店の所在の場所】	東京都豊島区西池袋一丁目4番10号
【電話番号】	03 - 5951 - 3718
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 儀同 康
【最寄りの連絡場所】	東京都豊島区西池袋一丁目4番10号
【電話番号】	03 - 5951 - 3718
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 儀同 康
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第21期 平成20年3月	第22期 平成21年3月	第23期 平成22年3月	第24期 平成23年3月	第25期 平成24年3月
売上高 (百万円)	314,135	333,663	349,097	449,050	499,305
経常利益 (百万円)	23,522	20,902	2,817	1,159	17,627
当期純利益 又は当期純損失( ) (百万円)	2,801	1,002	755	701	7,828
包括利益 (百万円)				825	7,741
純資産額 (百万円)	135,154	116,094	114,046	109,411	106,167
総資産額 (百万円)	230,777	221,091	217,552	228,885	231,097
1株当たり純資産額 (円)	2,130.50	1,836.39	1,967.93	1,879.76	1,924.65
1株当たり当期純利益金 額又は1株当たり当期純 損失金額( ) (円)	48.20	17.55	13.51	13.02	149.58
潜在株式調整後1株当 り当期純利益金額 (円)	48.17		13.40		149.42
自己資本比率 (%)	53.7	47.2	49.2	43.7	42.1
自己資本利益率 (%)	2.3		0.7		7.9
株価収益率 (倍)	61.0		112.3		16.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,660	16,587	6,688	12,709	21,796
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	13,599	1,645	4,785	6,103	2,458
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,745	15,874	8,357	14,728	18,233
現金及び現金同等物の期 末残高 (百万円)	16,490	18,800	19,651	15,386	16,454
従業員数 (人)	4,664	6,122	5,298	5,326	6,303
[外、平均臨時雇用者数]	[6,482]	[4,122]	[3,470]	[2,135]	[2,267]

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 第22期及び第24期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。
3. 第22期及び第24期の自己資本利益率、株価収益率については、当期純損失が計上されているため記載しておりません。
4. 当連結会計年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)を適用しており、前連結会計年度(第24期)についても遡及処理しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第21期 平成20年3月	第22期 平成21年3月	第23期 平成22年3月	第24期 平成23年3月	第25期 平成24年3月
売上高 (百万円)	14,392	16,754	14,689	13,379	18,666
経常利益 (百万円)	12,507	34,150	14,346	3,361	13,274
当期純利益 又は当期純損失( ) (百万円)	2,006	12,594	11,739	1,568	7,482
資本金 (百万円)	54,168	54,259	54,259	54,259	54,259
発行済株式総数 (株)	58,280,942	58,349,642	58,349,642	58,349,642	58,349,642
純資産額 (百万円)	94,112	88,557	102,528	98,036	96,203
総資産額 (百万円)	174,223	164,824	148,100	141,061	134,966
1株当たり純資産額 (円)	1,611.73	1,544.72	1,867.32	1,822.83	1,881.91
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	60.00 ( - )	60.00 ( - )	60.00 ( - )	60.00 ( - )	70.00 (30.00)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( ) (円)	34.52	220.54	209.95	29.14	142.98
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	220.53	209.95	29.14	142.98
自己資本比率 (%)	53.8	53.3	68.6	68.7	70.4
自己資本利益率 (%)	-	13.9	12.4	1.6	7.8
株価収益率 (倍)	-	8.4	7.2	55.8	17.0
配当性向 (%)	-	27.2	28.6	205.9	49.0
従業員数 (人)	356	432	427	501	508
[外、平均臨時雇用者数]	[67]	[73]	[48]	[38]	[36]

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 第21期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。
3. 第21期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失が計上されているため記載しておりません。
4. 当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)を適用しており、前事業年度(第24期)についても遡及処理しております。

2【沿革】

年月	事項
昭和63年2月	OA機器、電話機等の販売及びリースを目的として株式会社光通信を設立（資本金1百万円）
7月	市外電話サービスの回線販売事業を開始
平成2年4月	複写機、ファクシミリの販売を開始
平成3年11月	コンピュータ並びに周辺機器の販売を開始
平成4年12月	国際事業部を組織し、国際電話サービス回線販売事業を本格化
平成5年6月	移動体通信事業部を組織し、携帯電話サービス回線販売事業を本格化
平成6年4月	携帯電話機器の売切り制導入に伴い、携帯電話機器の販売を開始
5月	東京都新宿区に携帯電話販売店舗第1号店が開店
平成7年5月	通信機器営業部を組織し、ビジネスホンの販売を本格化
7月	簡易型携帯電話（PHS）サービスの取次及びPHS端末の販売を開始
9月	株式の額面金額変更のために形式上の存続会社株式会社光通信（東京都練馬区）と合併
平成8年2月	当社株式を日本証券業協会に登録
10月	移動体通信事業部を地域ごとに再編成
平成9年1月	当社株式の売買単位を1,000株から100株に変更
平成10年9月	レンタルサーバービジネスを本格化
平成11年5月	携帯電話販売店舗数が全国で1,500店舗
9月	当社株式を東京証券取引所市場第一部へ上場
平成13年6月	e-まちタウン株式会社（旧：株式会社クレイフィッシュ）を子会社化
平成14年3月	決算期を8月から3月に変更
7月	株式会社ニュートン・フィナンシャル・コンサルティングによって保険販売事業を本格的に開始
平成15年3月	不採算店舗のリストラにより携帯電話販売店舗数を全国で470店舗にまで縮小
6月	代表取締役2名体制を採用
9月	東京都豊島区南池袋1-16-15に本社移転
平成18年2月	株式会社クレイフィッシュの商号を「e-まちタウン株式会社」に変更
10月	日本情報処理開発協会（JIPDEC）より「プライバシーマーク」を認定取得
平成20年5月	中国・上海に営業所を設立
9月	株式会社パイオン（旧：株式会社ネクサス）を子会社化
平成21年2月	第7回無担保普通社債の満期償還（100億円）
7月	ユニバーサルソリューションシステムズ株式会社を子会社化
9月	株式会社HIKARIプライベート・エクイティが有するベンチャーファンドの業務執行権等を譲渡
平成22年12月	携帯電話販売店舗数が全国で2,000店舗を突破
平成23年10月	東京都豊島区西池袋1-4-10に本社移転

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（株式会社光通信）、連結子会社127社、持分法適用非連結子会社4社及び持分法適用関連会社105社により構成されております。当社は、持株会社としてグループ全般の経営管理を担い、各事業子会社・関連会社におきまして、主に「法人事業」、「SHOP事業」、「保険事業」及び「メディア広告事業」を行っております。当社と各関係会社の当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

#### (1) 法人事業

(株)アイ・イーグループ、(株)メンバーズモバイルを中心に、主に中小企業向けのOA機器販売、各種通信サービスの加入取次、法人向け移動体通信サービスの提供及びその他法人顧客向けサービスの提供を行っております。

#### (2) SHOP事業

テレコムサービス(株)、(株)ジェイ・コミュニケーションを中心に、店舗にて携帯電話端末及び周辺機器等の販売を行っております。

#### (3) 保険事業

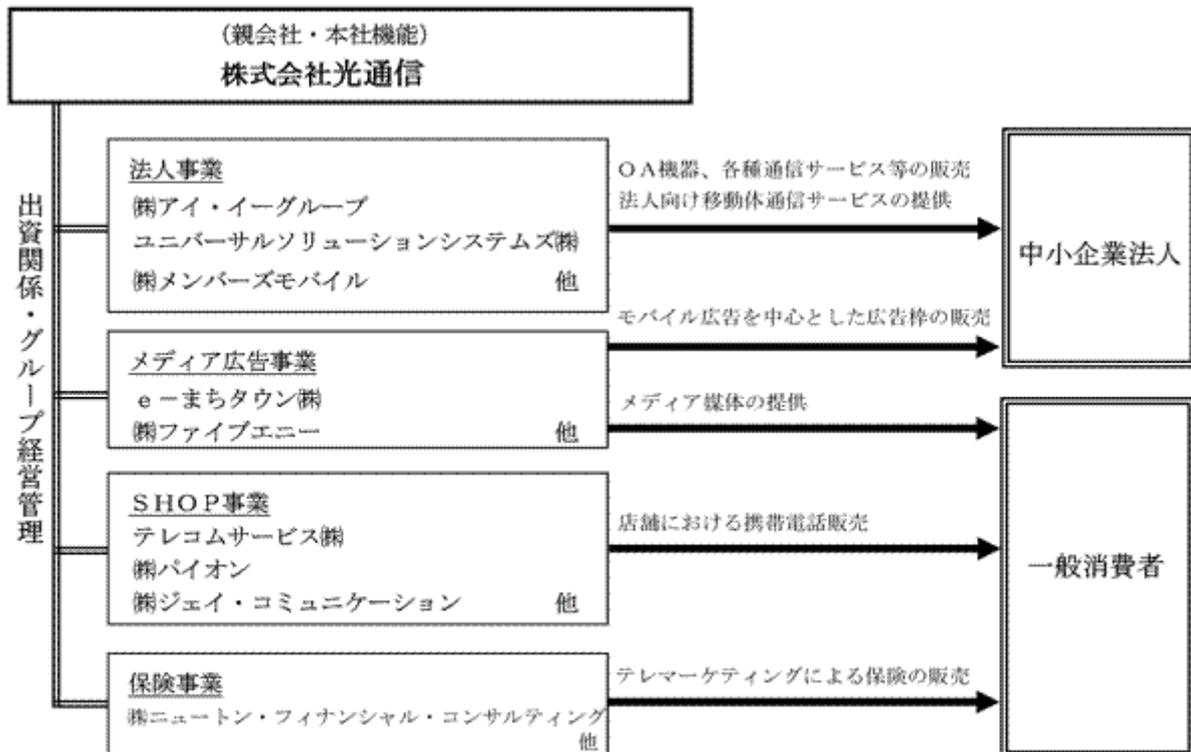
(株)ニュートン・フィナンシャル・コンサルティングを中心に、「第三分野」保険を中心に主にテレマーケティング手法による保険代理店事業を行っております。

#### (4) メディア広告事業

e-まちタウン(株)を中心に、モバイル広告を中心とした広告枠の仕入れ及び販売とサイト運営を行っております。

#### 事業系統図

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



#### 4【関係会社の状況】

##### (1)連結子会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主 要 な 事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容	摘要
(株)アイ・イーグループ	東京都豊島区	100	法人事業	100.0 [100.0]		* 1
ユニバーサルソリューションシステムズ(株)	東京都新宿区	1,454	法人事業	44.3 [5.6]	資金援助あり。	* 2
(株)メンバーズモバイル	東京都豊島区	250	法人事業	100.0 [100.0]	資金援助あり。	* 1 * 3
フロンティア(株)	東京都新宿区	35	法人事業	100.0 [100.0]		* 1
(株)ハローコミュニケーションズ	東京都豊島区	85	法人事業	100.0	資金援助あり。 役員の兼任あり。	
(株)エイチ・ティ・ソリューションズ	東京都豊島区	10	法人事業	100.0		* 1
テレコムサービス(株)	東京都豊島区	500	S H O P 事業	77.6 [77.6]	資金援助あり。 役員の兼任あり。	* 3
(株)ジェイ・コミュニケーション	東京都豊島区	90	S H O P 事業	100.0	役員の兼任あり。	* 3
(株)パイオン	大阪府大阪市	1,250	S H O P 事業 法人事業	68.5	資金援助あり。 役員の兼任あり。	* 2
(株)ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング	東京都新宿区	2,237	保険事業	70.0 [59.8]		
e - まちタウン(株)	東京都豊島区	1,410	メディア 広告事業	74.4 [0.4]		* 2
(株)ファイブエニー	東京都豊島区	490	メディア 広告事業	100.0 [100.0]		
その他115社						

(2)持分法適用関連会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な 事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容	摘要
(株)エフティコミュニ ケーションズ	東京都中央区	1,164	法人事業	28.5 [11.9]		*2
(株)アイフラッグ	東京都港区	8,151	法人事業	37.1 [26.7]		*2
(株)インタア・ホール ディングス	東京都新宿区	6,800	法人事業	37.4 [24.0]	役員の兼任あり。	*2
(株)イーサポート	福岡県飯塚市	312	法人事業	49.0 [16.0]		
(株)ビジョン	東京都新宿区	150	法人事業	30.0 [30.0]		
その他100社						

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。  
2. 議決権の所有割合の[ ]内は、間接所有割合で内数となっております。  
3. \*1：特定子会社に該当しております。  
4. \*2：有価証券報告書を提出しております。  
5. \*3：テレコムサービス(株)、(株)メンバーズモバイル及び(株)ジェイ・コミュニケーションについては、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。  
主要な損益情報は以下のとおりであります。

	主要な損益情報等				
	売上高 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益又は 当期純損失( ) (百万円)	純資産額 (百万円)	総資産額 (百万円)
テレコムサービス(株)	220,412	818	602	6,809	49,102
(株)メンバーズモバイル	86,248	399	169	627	15,630
(株)ジェイ・コミュニ ケーション	75,401	826	471	1,790	18,311

## 5【従業員の状況】

### (1)連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
法人事業	2,345	(912)
SHOP事業	2,186	(368)
保険事業	1,059	(945)
メディア広告事業	167	(4)
報告セグメント計	5,757	(2,229)
その他及び全社	546	(38)
合計	6,303	(2,267)

- (注) 1. 従業員は就業人員であり、臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。  
 2. その他及び全社として記載されている従業員数は、管理部門等に所属しているものであります。  
 3. 従業員数が前連結会計年度末に比べ977名増加しておりますが、これは(株)アドバンスサポート等新規連結子会社が増加したこと等により、主にSHOP事業の人員数が増加したためであります。

### (2)提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
508 (36)	31.8	4.3	5,327,372

セグメントの名称	従業員数(人)	
法人事業	63	-
SHOP事業	11	-
保険事業	-	-
メディア広告事業	-	-
報告セグメント計	74	-
その他及び全社	434	(36)
合計	508	(36)

- (注) 1. 従業員は就業人員であり、臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。  
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
 3. その他及び全社として記載されている従業員数は、管理部門等に所属しているものであります。  
 4. 従業員数が前事業年度末に比べ、7名増加しております。

### (3)労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円滑に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度（平成23年4月1日～平成24年3月31日）における我が国経済は、東日本大震災の影響を大きく受けたものの、その後一部消費の持ち直し等により、緩やかながら回復基調となってまいりました。しかしながら、欧米の政府債務危機や原油価格高騰などの懸念すべき問題も多く、日本経済の先行きは引き続き不透明な状況となっております。そのような中、モバイル市場におきましては新機種の相次ぐ発売や高速通信サービスの提供開始により、スマートフォン・タブレット端末の販売が引き続き好調に推移しており、販売台数全体に占めるスマートフォン比率は大きく上昇いたしました。加えてモバイルデータ通信端末や電子書籍端末、音楽・映像などの多種多様なコンテンツ・アプリケーションの需要も拡大しております。

このような状況の中、当社グループは、モバイル市場全体が好調に推移したことや、様々な業種との提携によって独自の販売網を広げるなど積極的な販売活動を行った結果、スマートフォンやモバイルデータ通信端末を中心に販売台数を大きく伸ばし、売上高が増加いたしました。また、ストックコミッション（ユーザーが毎月支払う基本契約・使用料金に応じて計算され、加入契約後、一定期間にわたって毎月通信キャリア、保険会社などから受け取る手数料）対象契約件数を積み上げることによって将来にわたる継続収入を確保しながら、一部先行投資を要する事業に対して生産性の向上に取り組むことにより、概ね計画通りの業績となりました。

その結果、当連結会計年度の業績は、売上高が499,305百万円（前年同期比11.2%増）、営業利益が18,371百万円（前年同期比608.1%増）、経常利益が17,627百万円（前年同期比1,420.5%増）、税金等調整前当期純利益が16,532百万円（前年同期比775.5%増）、当期純利益が7,828百万円（前年同期は当期純損失701百万円）となりました。

#### 法人事業

法人事業におきましては、O A機器を中心とした訪問販売、固定回線やブロードバンド回線などの通信回線サービス、携帯電話等の情報通信サービスの取次ぎ・販売、法人向けソリューションサービス等を行っております。当社グループがメイン顧客とする中小企業は、収益改善の兆しが見られつつあるものの、景気判断の先行きについては慎重な見方をする企業が多い中で、当社グループは全国に広がる販売網および多種多様かつ高品質な商材・サービスの取扱いを通じて、お客様に対して業務効率向上とコスト適正化の提案を行ってまいりました。

このような状況の中、引き続き注力商材を中心としたストックコミッション対象契約件数を積み上げることによって継続収入を確保しながらも、一部先行投資を要する事業に対して生産性の向上を優先することにより計画通り順調に推移いたしました。

その結果、当連結会計年度の法人事業の売上高は180,184百万円（前年同期比2.2%減）、営業利益は10,815百万円（前年同期は営業損失4,860百万円）となりました。

#### SHOP事業

SHOP事業におきましては、全国で展開する店舗を主な販路とした携帯電話端末や周辺機器、モバイルコンテンツ等の販売事業を行っております。モバイル市場におきましては、新機種の相次ぐ発売や高速通信サービスの提供開始により、スマートフォン・タブレット端末の販売が引き続き好調に推移しており、販売台数全体に占めるスマートフォン比率は大きく上昇するなど、市場全体が好調に推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは店舗における顧客サービスの品質向上とともに、様々な業種との提携によって独自の販売網を広げるなど積極的な販売活動を行った結果、総販売台数及びストックコミッション対象契約台数が増加いたしました。

その結果、当連結会計年度のSHOP事業の売上高は306,817百万円（前年同期比21.0%増）、営業利益は9,923百万円（前年同期比7.8%増）となりました。

#### 保険事業

保険事業におきましては、当社グループの強みである販売力を活かし、コールセンターを中心とした販売網にて全国のお客さまへ保険商品のご提案を行っております。

前連結会計年度末に発生した東日本大震災後に自粛を行っていた販売活動も徐々に再開し、適正な人員規模の維持と人材の育成に取り組むとともに、顧客基盤を有する企業との積極的な提携により、顧客リストの拡充を行うなど生産性の向上にも努めてまいりました。また、引き続き情報管理に関する社内研修と情報管理システムの強化も徹底して行っております。

その結果、当連結会計年度の保険事業の売上高は9,387百万円（前年同期比8.7%増）、営業利益は1,149百万円（前年同期比15.2%増）となりました。

#### メディア広告事業

メディア広告事業におきましては、主に上場子会社であるe-まちタウングループを通じて、モバイル広告を中心とした広告枠の仕入れ及び販売とサイト運営をメインに事業を展開しております。

広告枠の仕入れ・販売に関しては、新規媒体の開拓とクライアントの獲得に努めた結果、クライアント数は堅調に推移しております。サイト運営におきましては、全国322ヶ所を数える地域情報ポータルサイト「e-まちタウン」のスマートフォン対応を実施するなどの集客力を高める対策を行いながら、粗利率の高い自社メディアの強化を行いました。

その結果、当連結会計年度のメディア広告事業の売上高は6,496百万円（前年同期比27.0%増）、営業利益は366百万円（前年同期比10.8%減）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,709	21,796
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,103	2,458
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,728	18,233
現金及び現金同等物の期末残高	15,386	16,454

営業活動によるキャッシュ・フローは、当連結会計年度の業績が好調に推移したこと等により、21,796百万円のプラスとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得等により、2,458百万円のマイナスとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済等により、18,233百万円のマイナスとなりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当連結会計年度末残高は、16,454百万円となりました。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

該当事項はありません。

### (2) 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
法人事業(百万円)	76,142	97.6
SHOP事業(百万円)	193,386	126.3
合計(百万円)	269,528	116.6

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

### (3) 受注実績

該当事項はありません。

### (4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
法人事業(百万円)	178,611	97.5
SHOP事業(百万円)	304,663	120.9
保険事業(百万円)	9,387	109.3
メディア広告事業(百万円)	6,455	129.0
報告セグメント計(百万円)	499,117	111.2
その他(百万円)	188	60.3
合計(百万円)	499,305	111.2

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。  
3. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
ソフトバンクモバイル(株)	127,180	28.3	128,373	25.7

### 3【対処すべき課題】

当社グループは、各事業の市場環境の変化を的確に捉え、適正なグループ経営資源の配分を行い、グループ全体の成長を目指してまいります。中核事業における中長期戦略及び対処すべき課題は、以下のとおりであります。

#### （法人事業）

法人事業におきましては、モバイルデータ通信端末などの注力商材の販売により、ストックコミッション対象契約件数をさらに拡大していくことが課題となります。既存顧客との継続的な取引関係を維持する（解約率を低下させる）ために、サポート体制の強化や商品知識を始めとする従業員教育の徹底を行い、生産性の向上を図ることで一顧客あたりの単価増大と一従業員あたりの利益率向上を目指します。

また、引き続き事業の選択と集中を行いながら、販売ノウハウや販売網の確立などにより事業全体の生産性向上を徹底し、モバイルをはじめとする情報通信サービスの販売推進並びに保有顧客数の増大を目指します。

#### （SHOP事業）

SHOP事業におきましては、新機種の相次ぐ発売や高速通信サービスの提供開始により競争激化が進む中で、販売パートナーを中心とする独自販売網の拡大、既存店舗の生産性向上が課題となります。

また、事業領域をこれまでの携帯電話端末販売に限らず、モバイル関連サービス全般まで拡大することで、今後のSHOP事業における利益成長を目指します。

#### （保険事業）

今後の保険事業における安定した利益成長を実現するために、顧客基盤を有する企業と事業提携等を行うことによる顧客データベースの拡充、テレマーケティングシステムを軸にした新たな販売チャネルの確保、適正な人員規模の維持と人材の育成に取り組んでまいります。

また、当社グループではこれまで情報漏洩防止等について積極的に取り組んでまいりましたが、今後ますます日本社会においてコンプライアンスの重要性が高まると予想されるため、情報セキュリティの継続的な強化が課題となります。

#### （メディア広告事業）

メディア広告事業の安定した利益成長を実現するために、モバイル広告事業において、スマートフォンなどの新たなデバイスに対応することで、新規業種クライアントの獲得やクライアント業種の増加に合わせたプランニングに取り組んでまいります。

また、全国322ヶ所を数える地域情報ポータルサイト「e-まちタウン」を運営するタウン事業を軸に、コンテンツ・サービス内容の充実、ユーザビリティの向上を図ることで利用者及び会員数の増加並びに媒体価値の向上に努めております。これらのローカル広告を自社だけでなく各地域に張り巡らせたパートナーシップ網を通じ、各地域のタウンサイトの活性化を図り、当該事業により継続的な成長を見込める経営基盤の構築を進めてまいります。

### 4【事業等のリスク】

当社グループの財政状態及び経営成績等に影響を及ぼす可能性のある主なリスクは以下のとおりであります。

#### 販売代理業務契約に係るリスク

当社グループの主要な事業は通信事業者やメーカー等の販売代理店事業であり、その契約内容及び条件に基づき事業を行っております。通信事業者やメーカーの方針の変更によって、事業の収益性や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。通信事業者につきましては、行政当局の政策変更等に伴って料金体系や販売方針を変更した場合、当社グループもその影響を受ける可能性があります。

#### 自社サービスの販売に係るリスク

当社グループは、通信事業者やメーカー等の販売代理店業務を行う他に、主に法人事業において、自社サービスの直接販売も行っております。自社サービスの直接販売業務は、販売代理店業務と比較した場合、取引開始後に当社グループが継続的に得られる収入が増加いたしますが、取引開始に当たっての先行費用等が発生いたします。したがって、市場環境の変化等により取引関係が早期に解消されるなど、サービスの供給が不能となる等の事態が発生した場合、先行費用の回収が困難になり、事業の収益性に影響を及ぼす可能性があります。

#### 個人情報に係るリスク

当社グループでは高度な個人情報を日々取り扱っております。何らかの原因でそれらの情報が流出した場合、当社グループの信用を失うこととなり、その結果、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### 投資有価証券に係るリスク

当社グループは上場株式やIT関連を中心とした未公開株式等を保有しており、株式市況の低迷や投資先の経営状況の悪化・破綻等により、保有する投資有価証券の評価額が減少し、財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### 法的規制に係るリスク

当社グループの保険事業においては、関連法令や制度、金融庁等の関連当局による監督、並びに取引先保険会社の指導などの包括的な規制を受けております。また、SHOP事業、法人事業におきましても、「不当景品類及び不当表示防止法」「特定商取引に関する法律」「電気通信事業法」等の法的規制を受けており、今後、これらの法令や規則等の予測不能な変更あるいは新設が、各事業の収益性に影響を及ぼす可能性があります。

### 企業買収等による事業拡大に係るリスク

当社グループは、今後も継続的に事業の拡大を目指すにあたって、競合他社の買収を一つの選択肢として検討していく方針であります。その実施にあたっては、十分なデューデリジェンスと厳格な社内手続きを経て対象企業を決定いたしますが、これらの買収実施後、市場環境の変化等により計画どおりの販路拡大や利益拡大ができず、財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### 繰越欠損金に係るリスク

当社グループでは、過去の損失による税務上の繰越欠損金があり、通常より低い税負担率で推移しております。今後、当該繰越欠損金の解消とともに税負担率が上昇し、当期純利益及びキャッシュ・フローに影響を及ぼす可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

### (1) 代理店契約

平成24年3月31日現在における主な代理店契約は以下のとおりであります。

契約会社名	相手方の名称	契約内容	契約期間
(株)ジェイ・コミュニケーション	KDDI(株)	移動電話サービス加入に関する業務委託並びに移動電話端末機及びその関連商品の売買	平成13年4月1日から平成14年3月31日まで以後1年毎の自動更新
テレコムサービス(株)	ソフトバンクモバイル(株)	移動電話サービス加入に関する業務委託並びに移動電話端末機及びその関連商品の売買	平成14年11月1日から平成15年3月31日まで以後1年毎の自動更新
(株)メンバーズモバイル	ソフトバンクモバイル(株)	移動電話サービス加入に関する業務委託並びに移動電話端末機及びその関連商品の売買	平成18年11月15日から平成19年3月31日まで以後1年毎の自動更新

### (2) 販売業務受託契約

契約会社名	相手方の名称	契約内容	契約期間
(株)アイ・イーグループ	シャープドキュメントシステム(株)	複写機等に関する売買取引契約	平成11年12月1日から平成12年11月30日まで以後1年毎の自動更新
(株)ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング	アメリカンライフインシュアランスカンパニー	生命保険の募集代理業務委託	平成14年5月29日から平成15年5月28日まで以後1年毎の自動更新
(株)ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング	アメリカンホーム保険会社	損害保険の募集代理業務委託	期間の定めなし

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

## (1) 財政状態

	前連結会計年度 平成23年3月31日	当連結会計年度 平成24年3月31日	増減
	百万円	百万円	百万円
総資産	228,885	231,097	2,211
負債	119,474	124,930	5,456
純資産	109,411	106,167	3,244
1株当たり純資産	1,879.76	1,924.65	44.89

総資産は、当連結会計年度の業績が好調に推移し、売上債権が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べて2,211百万円増加の231,097百万円となりました。

負債は、仕入債務の増加等により、前連結会計年度末に比べて5,456百万円増加の124,930百万円となりました。

純資産は、自己株式の取得や配当金の支払い、その他有価証券評価差額金の減少等により、前連結会計年度末に比べて3,244百万円減少の106,167百万円となりました。

## (2) 経営成績

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	増減
	百万円	百万円	%
売上高	449,050	499,305	11.2
売上総利益	207,179	224,634	8.4
営業利益	2,594	18,371	608.1
営業外収益	2,045	2,359	15.3
営業外費用	3,481	3,104	10.8
経常利益	1,159	17,627	1,420.5
特別利益	3,569	1,445	59.5
特別損失	2,840	2,540	10.5
当期純利益又は 当期純損失( )	701	7,828	

売上高におきましては、SHOP事業における携帯電話の販売台数が増加したことや、法人事業における自社商材の販売活動が年間を通じて堅調に推移したため、前年同期比11.2%増の499,305百万円となりました。

販売費及び一般管理費におきましては、人員数の増加に伴い人件費が増加したため、前年同期比0.8%増の206,262百万円となりました。

その結果、当連結会計年度の営業利益につきましては前年同期比608.1%増の18,371百万円となりました。

その他の損益におきましては、営業外費用の項目において、持分法による投資損失を1,609百万円計上しております。

また、特別損失の項目において、投資有価証券評価損を1,545百万円計上しております。

以上の結果に加え、法人税等を8,395百万円計上したこと等により、当期純利益につきましては、7,828百万円となりました。

なお、事業別の分析は、「第2 事業の状況 1 業績等の概要」をご参照下さい。

## (3) キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローの状況の分析は、「第2 事業の状況 1 業績等の概要」をご参照下さい。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループにおける当連結会計年度の設備投資は、事業拡大に伴う販売インフラ整備の観点から実施しており、2,335百万円となりました。その主たるものは、SHOP事業における新規店舗の出店によるものであります。なお、当連結会計年度の設備投資には有形固定資産及びソフトウェアを含めており、その内訳は以下のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度
法人事業	882百万円
SHOP事業	972百万円
保険事業	181百万円
メディア広告事業	71百万円
報告セグメント計	2,108百万円
その他及び全社	227百万円
合計	2,335百万円

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					合計 (百万円)	従業員数 (人)
			建物及び構築物 (百万円)	工具器具備品 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)		
本社 (東京都豊島区)	全社	事務所設備及び備品	1,689	248	3,164 (2,143.63)	13	162	5,278	508

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は車両運搬具及びソフトウェアであります。

なお、金額には消費税は含めておりません。

2. 土地の面積については( )で外書しております。

(2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	工具器具 備品 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
(株)アイ・イーグループ	本社他 (関東他)	法人 事業	事務所設備 及び備品	153	23	- ( - )	-	35	212	332
テレコムサービス(株)	店舗 (関東)	S H O P 事業	事務所 店舗設備 及び備品	374	67	- ( - )	-	6	448	1
(株)ジェイ・コムニケーション	本社他 (関西他)	S H O P 事業	事務所 店舗設備 及び備品	144	41	25 ( 831 )	-	1	212	55
(株)ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング	本社他 (関東他)	保険 事業	事務所設備 及び備品	168	98	- ( - )	3	15	284	890
e-まちタウン(株)	本社他 (関東)	メディア 広告事業	事務所設備 及び備品	10	5	- ( - )	-	97	112	64

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は機械装置及び運搬具及びソフトウェアであります。

なお、金額には消費税は含めておりません。

2. 土地の面積については( )で外書しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資計画については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備投資計画は原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、計画策定に当たってはグループ会議において当社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末における重要な設備の新設、改修、売却の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	183,398,568
無議決権株式	50,000,000
計	233,398,568

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月22日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	58,349,642	58,349,642	株式会社東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	58,349,642	58,349,642	-	-

(注)「提出日現在発行数」には、平成24年6月1日以降提出日までの新株予約権の行使により発行されたものは含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

会社法第236条、第238条、第239条及び第361条第1項第3号の規定に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成18年6月27日定時株主総会決議（平成18年8月25日取締役会決議）

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	3,000	3,000
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 100株	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	300,000	300,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	6,180	6,180
新株予約権の行使期間	自 平成20年8月26日 至 平成28年8月25日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 6,180 資本組入額 3,090	発行価格 6,180 資本組入額 3,090
新株予約権の行使の条件	(注)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を必要とする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合には、当社取締役会決議がなされた場合）には、当社は、取締役会が別に定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。	同左

- (注) 1. 対象者は、権利行使時において当社もしくは当社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。  
ただし、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定める正当な理由がある場合はこの限りではない。
2. 対象者が死亡した場合には、相続人がその権利を行使することができる。
3. 対象者は、付与された権利の質入その他の処分をすることができない。
4. その他の条件については、株主総会及び取締役会決議に基づき、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

平成18年6月27日定時株主総会決議（平成18年8月25日取締役会決議）

	事業年度末現在 （平成24年3月31日）	提出日の前月末現在 （平成24年5月31日）
新株予約権の数（個）	120	120
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 100株	同左
新株予約権の目的となる株式の数（株）	12,000	12,000
新株予約権の行使時の払込金額（円）	6,180	6,180
新株予約権の行使期間	自 平成20年8月26日 至 平成28年8月25日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 6,180 資本組入額 3,090	発行価格 6,180 資本組入額 3,090
新株予約権の行使の条件	（注）	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を必要とする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合には、当社取締役会決議がなされた場合）には、当社は、取締役会が別に定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。	同左

（注）1．対象者は、権利行使時において当社もしくは当社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。

ただし、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定める正当な理由がある場合はこの限りではない。

- 2．対象者が死亡した場合には、相続人がその権利を行使することができる。
- 3．対象者は、付与された権利の質入その他の処分をすることができない。
- 4．その他の条件については、株主総会及び取締役会決議に基づき、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

平成18年6月27日定時株主総会決議（平成19年3月30日取締役会決議）

	事業年度末現在 （平成24年3月31日）	提出日の前月末現在 （平成24年5月31日）
新株予約権の数（個）	1,174	1,172
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 100株	同左
新株予約権の目的となる株式の数（株）	117,400	117,200
新株予約権の行使時の払込金額（円）	5,474	5,474
新株予約権の行使期間	自 平成21年3月31日 至 平成29年3月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 5,474 資本組入額 2,737	発行価格 5,474 資本組入額 2,737
新株予約権の行使の条件	（注）	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を必要とする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合には、当社取締役会決議がなされた場合）には、当社は、取締役会が別に定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。	同左

- （注）1．対象者は、権利行使時において当社もしくは当社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。  
ただし、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定める正当な理由がある場合はこの限りではない。
- 2．対象者が死亡した場合には、相続人がその権利を行使することができる。
- 3．対象者は、付与された権利の質入その他の処分をすることができない。
- 4．その他の条件については、株主総会及び取締役会決議に基づき、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

平成18年6月27日定時株主総会決議（平成20年2月26日取締役会決議）

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	190	180
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 100株	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	19,000	18,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	3,914	3,914
新株予約権の行使期間	自 平成23年2月27日 至 平成30年2月26日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 3,914 資本組入額 1,957	発行価格 3,914 資本組入額 1,957
新株予約権の行使の条件	(注)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を必要とする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合には、当社取締役会決議がなされた場合）には、当社は、取締役会が別に定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。	同左

- (注) 1. 対象者は、権利行使時において当社もしくは当社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。  
ただし、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定める正当な理由がある場合はこの限りではない。
2. 対象者が死亡した場合には、相続人がその権利を行使することができる。
3. 対象者は、付与された権利の質入その他の処分をすることができない。
4. その他の条件については、株主総会及び取締役会決議に基づき、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

平成20年6月24日定時株主総会決議（平成20年6月25日取締役会決議）

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	1,000	1,000
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 100株	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	100,000	100,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	3,785	3,785
新株予約権の行使期間	自平成23年6月26日 至平成30年6月25日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 3,785 資本組入額 1,893	発行価格 3,785 資本組入額 1,893
新株予約権の行使の条件	(注)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を必要とする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合には、当社取締役会決議がなされた場合）には、当社は、取締役会が別に定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。	同左

- (注) 1. 対象者は、権利行使時において当社もしくは当社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。  
ただし、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定める正当な理由がある場合はこの限りではない。
2. 対象者は、付与された権利の質入その他の処分をすることができない。
3. その他の条件については、取締役会決議に基づき、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

平成20年6月25日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	320	320
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 100株	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	32,000	32,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	3,785	3,785
新株予約権の行使期間	自 平成23年6月26日 至 平成30年6月25日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 3,785 資本組入額 1,893	発行価格 3,785 資本組入額 1,893
新株予約権の行使の条件	(注)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を必要とする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合には、当社取締役会決議がなされた場合)には、当社は、取締役会が別に定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。	同左

- (注) 1. 対象者は、権利行使時において当社もしくは当社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。  
ただし、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定める正当な理由がある場合はこの限りではない。
2. 対象者は、付与された権利の質入その他の処分をすることができない。
3. その他の条件については、取締役会決議に基づき、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

平成20年11月13日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	70	70
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 100株	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	7,000	7,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,680	1,680
新株予約権の行使期間	自 平成23年11月14日 至 平成30年11月13日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,680 資本組入額 840	発行価格 1,680 資本組入額 840
新株予約権の行使の条件	(注)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を必要とする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合には、当社取締役会決議がなされた場合)には、当社は、取締役会が別に定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。	同左

- (注) 1. 対象者は、権利行使時において当社もしくは当社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。  
ただし、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定める正当な理由がある場合はこの限りではない。
2. 対象者は、付与された権利の質入その他の処分をすることができない。
3. その他の条件については、取締役会決議に基づき、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

平成22年6月14日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	10	10
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 100株	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	1,000	1,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,809	1,809
新株予約権の行使期間	自 平成25年6月15日 至 平成32年6月14日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,809 資本組入額 905	発行価格 1,809 資本組入額 905
新株予約権の行使の条件	(注)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を必要とする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合には、当社取締役会決議がなされた場合)には、当社は、取締役会が別に定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。	同左

- (注) 1. 対象者は、権利行使時において当社もしくは当社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。  
ただし、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定める正当な理由がある場合はこの限りではない。
2. 対象者は、付与された権利の質入その他の処分をすることができない。
3. その他の条件については、取締役会決議に基づき、対象者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

( 3 ) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

( 4 ) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

( 5 ) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成20年3月31日 (注)1	54,000	58,280,942	46	54,168	46	25,756
平成21年3月31日 (注)2	68,700	58,349,642	90	54,259	90	25,847

(注)1. 新株予約権の権利行使(平成19年4月1日から平成20年3月31日までの間)により、発行済株式総数が54,000株、資本金が46百万円、資本準備金が46百万円増加しております。

2. 新株予約権の権利行使(平成20年4月1日から平成21年3月31日までの間)により、発行済株式総数が68,700株、資本金が90百万円、資本準備金が90百万円増加しております。

( 6 ) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 100株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	31	31	176	200	29	13,901	14,368	-
所有株式数(単元)	-	33,571	2,253	239,876	57,094	122	250,243	583,159	33,742
所有株式数の割合 (%)	-	5.76	0.39	41.13	9.79	0.02	42.91	100.00	-

(注)1. 自己株式 7,837,043株は、「個人その他」に78,370単元、及び「単元未満株式の状況」に43株含めて記載しております。

2. 上記「その他の法人」欄には、証券保管振替機構名義の株式が10単元含まれております。

(7)【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
有限会社 光パワー	東京都港区南麻布3丁目19-23	20,354	34.88
株式会社 光通信	東京都豊島区西池袋1丁目4-10	7,837	13.43
重田 康光	東京都港区	7,813	13.39
有限会社 テツ	東京都港区南麻布3丁目19-23	1,100	1.89
有限会社 マサ	東京都港区南麻布3丁目19-23	1,100	1.89
有限会社 ミツ	東京都港区南麻布3丁目19-23	1,100	1.89
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,017	1.74
玉村 剛史	東京都文京区	941	1.61
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	867	1.49
光通信従業員持株会	東京都豊島区西池袋2丁目29-16	497	0.85
計		42,629	73.06

(注) 1. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 1,017千株

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 867千株

2. 有限会社 光パワーへは重田康光氏が100%出資しております。
3. 重田康光氏は有限会社 テツ及び有限会社 マサの取締役社長を務めております。
4. 有限会社 ミツは重田康光氏の配偶者である重田康子氏が代表取締役を務めております。

( 8 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 7,837,000	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 50,478,900	504,789	同上
単元未満株式	普通株式 33,742	-	同上
発行済株式総数	58,349,642	-	-
総株主の議決権	-	504,789	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権の数10個)含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社 光通信	東京都豊島区西池袋1丁目4-10	7,837,000	-	7,837,000	13.43
計	-	7,837,000	-	7,837,000	13.43

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

当社はストックオプション制度を採用しております。当該制度は会社法第236条、第238条、第239条及び第361条第1項第3号の規定に基づき発行する方法によるものであります。

当該制度の内容は、以下のとおりであります。

(平成18年6月27日定時株主総会決議)

会社法第236条、第238条並びに第239条及び第361条第1項第3号の規定に基づき、平成18年6月27日開催の当社第19回定時株主総会において特別決議されたものであります。

決議年月日	平成18年6月27日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	340,000株を総株数の上限とする
新株予約権の行使時の払込金額	(注)
新株予約権の行使期間	割当日より10年を経過する日までの範囲内で当社取締役会が定める期間
新株予約権の行使の条件	権利行使時において当社もしくは当社子会社の取締役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、対象者との間で締結する新株予約権付与契約に定める正当な理由がある場合はこの限りではない。新株予約権に関するその他の内容については、新株予約権の募集事項を決定する取締役会において定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を必要とする。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合には、当社取締役会決議がなされた場合)には、当社は、取締役会が別に定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。

(注) 新株予約権行使時の払込金額は、新株予約権の割当日の属する月の前月の各日(取引が成立していない日を除く)における東京証券取引所における当社株式普通取引の終値の平均値に1.05を乗じた金額(1円未満の端数は切り上げ)とする。

ただし、当該金額が割当日の終値(取引が成立しない場合はそれに先立つ直近日の最終価格)を下回る場合は、当該終値をもって払込金額とする。

なお、割当日後、当社が普通株式につき、株式分割または株式併合を行う場合、それぞれの効力発生の時をもって、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

(平成18年6月27日定時株主総会決議)  
会社法第236条、第238条並びに第239条の規定に基づき、平成18年6月27日開催の当社第19回定時株主総会において特別決議されたものであります。

決議年月日	平成18年6月27日
付与対象者の区分及び人数	当社従業員及び顧問並びに当社子会社取締役、従業員及び顧問(当社または当社子会社と顧問契約を締結している顧問に限る)
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	160,000株を総株数の上限とする
新株予約権の行使時の払込金額	(注)
新株予約権の行使期間	割当日より10年を経過する日までの範囲内で当社取締役会が定める期間
新株予約権の行使の条件	権利行使時において当社もしくは当社子会社の取締役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、対象者との間で締結する新株予約権付与契約に定める正当な理由がある場合はこの限りではない。新株予約権に関するその他の内容については、新株予約権の募集事項を決定する取締役会において定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を必要とする。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合には、当社取締役会決議がなされた場合)には、当社は、取締役会が別に定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。

(注) 新株予約権行使時の払込金額は、新株予約権の割当日の属する月の前月の各日(取引が成立していない日を除く)における東京証券取引所における当社株式普通取引の終値の平均値に1.05を乗じた金額(1円未満の端数は切り上げ)とする。

ただし、当該金額が割当日の終値(取引が成立しない場合はそれに先立つ直近日の最終価格)を下回る場合は、当該終値をもって払込金額とする。

なお、割当日後、当社が普通株式につき、株式分割または株式併合を行う場合、それぞれの効力発生の時をもって、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

(平成20年6月24日定時株主総会決議)

会社法第236条、第238条並びに第239条及び第361条第1項第3号の規定に基づき、平成20年6月24日開催の当社第21回定時株主総会において決議されたものであります。

決議年月日	平成20年6月24日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	200,000株を総株数の上限とする
新株予約権の行使時の払込金額	(注)
新株予約権の行使期間	割当日より10年を経過する日までの範囲内で当社取締役会が定める期間
新株予約権の行使の条件	権利行使時において当社もしくは当社子会社の取締役または従業員の地位を保有していることを要する。 ただし、対象者との間で締結する新株予約権付与契約に定める正当な理由がある場合はこの限りではない。 新株予約権に関するその他の内容については、新株予約権の募集事項を決定する取締役会において定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を必要とする。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合には、当社取締役会決議がなされた場合)には、当社は、取締役会が別に定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。

(注) 新株予約権行使時の払込金額は、新株予約権の割当日の属する月の前月の各日(取引が成立していない日を除く。)における東京証券取引所における当社株式普通取引の終値の平均値に1.05を乗じた金額(1円未満の端数は切り上げ)とする。

ただし、当該金額が割当日の終値(当日に終値がない場合は、それに先立つ直近日の終値)を下回る場合は、当該終値をもって払込金額とする。

なお、割当日後、当社が当社普通株式につき、株式分割または株式併合を行う場合、吸収合併、新設合併、吸収分割、新設分割、株式交換、株式移転を行う場合、調整前行使価額を下回る1株当たりの払込金額をもって当社普通株式を新規に発行または自己株式を処分する場合(新株予約権を行使した場合を除く。)、調整前行使価額を下回る1株当たりの払込金額をもって当社普通株式を取得しうる新株予約権または新株予約権を付与された証券を行使する場合等、行使価額の調整をすることが適切な場合は、当社は合理的な範囲内で行使価額の調整を行う。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成23年6月14日)での決議状況 (取得期間 平成23年6月15日~平成24年3月31日)	1,000,000	1,500,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	778,400	1,499,876,900
残存決議株式の総数及び価額の総額	221,600	123,100
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	22.16	0.01
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	22.16	0.01

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成23年11月10日)での決議状況 (取得期間 平成23年11月11日~平成24年3月31日)	1,000,000	1,500,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	764,500	1,499,907,400
残存決議株式の総数及び価額の総額	235,500	92,600
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	23.55	0.01
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	23.55	0.01

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成24年1月23日)での決議状況 (取得期間 平成24年1月24日~平成24年3月31日)	1,300,000	2,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	899,900	1,999,838,600
残存決議株式の総数及び価額の総額	400,100	161,400
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	30.78	0.01
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	30.78	0.01

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成24年3月15日)での決議状況 (取得期間 平成24年3月16日~平成24年6月30日)	1,000,000	2,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	244,000	591,923,500
残存決議株式の総数及び価額の総額	756,000	1,408,076,500
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	75.60	70.40
当期間における取得自己株式	563,400	1,407,916,100
提出日現在の未行使割合(%)	19.26	0.01

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成24年5月18日)での決議状況 (取得期間 平成24年5月21日~平成24年9月30日)	1,000,000	2,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	-	-
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	107,800	314,234,200
提出日現在の未行使割合(%)	89.22	84.29

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの期間に取得した株式は含まれておりません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないもの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	73	135,793
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	7,837,043	-	8,508,243	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの期間に取得した株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、株主に対しての利益配分を経営の最重要課題として認識しており、安定的な配当を継続することを基本方針としております。

当社は、期末配当での剰余金の配当を行うことを基本方針としております。なお、剰余金の配当の決定機関は、取締役会であります。

この基本方針に基づき、当連結会計年度におきましては、1株当たり30円（総額1,572百万円）の配当を実施することを平成23年11月10日、1株当たり40円（総額2,020百万円）の配当を実施することを平成24年5月18日開催の取締役会決議によって決定いたしました。

次期の配当につきましては、1株当たり80円（四半期ごとに20円）の配当を実施する予定です。

内部留保資金につきましては、営業販路の強化や財務体質の改善に有効的に活用することにより、強固な経営基盤の構築を目指してまいります。

当社は、会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる旨定款に定めております。また、当社は株主への機動的な利益還元を可能とするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

### 4【株価の推移】

#### （1）【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高（円）	5,700	4,100	2,485	2,176	2,483
最低（円）	2,600	1,056	1,400	1,261	1,534

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所第一部におけるものであります。

#### （2）【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高（円）	1,850	1,964	2,036	2,066	2,345	2,483
最低（円）	1,662	1,706	1,847	1,924	1,930	2,253

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役会長		重田 康光	昭和40年2月25日生	昭和63年2月 当社設立 代表取締役社長 平成3年6月 有限会社光パワー設立 取締役社長(現任) 平成12年11月 当社最高経営責任者(現任) 平成15年6月 当社代表取締役会長(現任) 平成17年10月 有限会社ミツ取締役社長 有限会社マサ取締役社長 (現任) 有限会社テツ取締役社長 (現任)	(注)2	7,813
代表取締役社長		玉村 剛史	昭和45年7月16日生	平成3年4月 当社入社 平成8年11月 当社取締役 平成11年9月 情報通信事業統括本部情報通 信事業本部長 平成11年11月 常務取締役 平成12年11月 最高執行責任者(現任) 平成13年11月 取締役副社長 平成15年6月 代表取締役社長(現任)	(注)2	941
常務取締役	情報通信事 業本部長	和田 英明	昭和48年12月13日生	平成9年4月 当社入社 平成16年6月 当社取締役 平成17年9月 ネットワーク事業本部長 平成19年4月 常務取締役 平成20年2月 ㈱バイオ取締役(現任) 平成21年6月 情報通信事業本部長(現任) 平成23年10月 ㈱インタア・ホールディング ス取締役(現任) 平成24年4月 ㈱ハローコミュニケーション ズ代表取締役(現任) 平成24年6月 常務取締役(現任)	(注)2	116
常務取締役	管理本部長	儀同 康	昭和38年8月31日生	昭和62年4月 日本アイ・ピー・エム株式会 社入社 平成4年4月 当社入社 平成6年2月 経営企画室長 平成7年4月 当社取締役 平成9年12月 管理本部長 平成11年11月 常務取締役 平成13年11月 取締役 管理本部長(現任) 平成24年6月 常務取締役(現任)	(注)2	301

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		西島 義隆	昭和34年9月16日生	昭和63年4月 当社入社 平成17年6月 常勤監査役(現任)	(注)3	0
監査役		田中 稔	昭和29年12月8日生	昭和60年3月 公認会計士登録 昭和63年4月 田中共同事務所(現税理士法人レコルテ)代表 平成6年12月 株式会社レコルテ代表取締役(現任) 平成14年6月 監査役(現任) 平成16年8月 株式会社アブルポア代表取締役(現任)	(注)3	1
監査役		高野 一郎	昭和31年5月8日生	昭和62年3月 弁護士登録 平成4年4月 東京永和法律事務所入所 平成17年6月 監査役(現任) 平成20年7月 高野法律事務所開設 同事務所代表(現任)	(注)3	-
計						29,529

- (注) 1. 監査役 田中稔、高野一郎は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
2. 平成24年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から1年間  
3. 平成21年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社グループは、親会社である株式会社光通信が持株会社としての役割を担い、各事業会社の経営を統率することで、グループで一貫したビジョンのもと、コンプライアンスを遵守した公正かつ透明性の高いグループ経営を目指しております。

(会社の機関の内容)

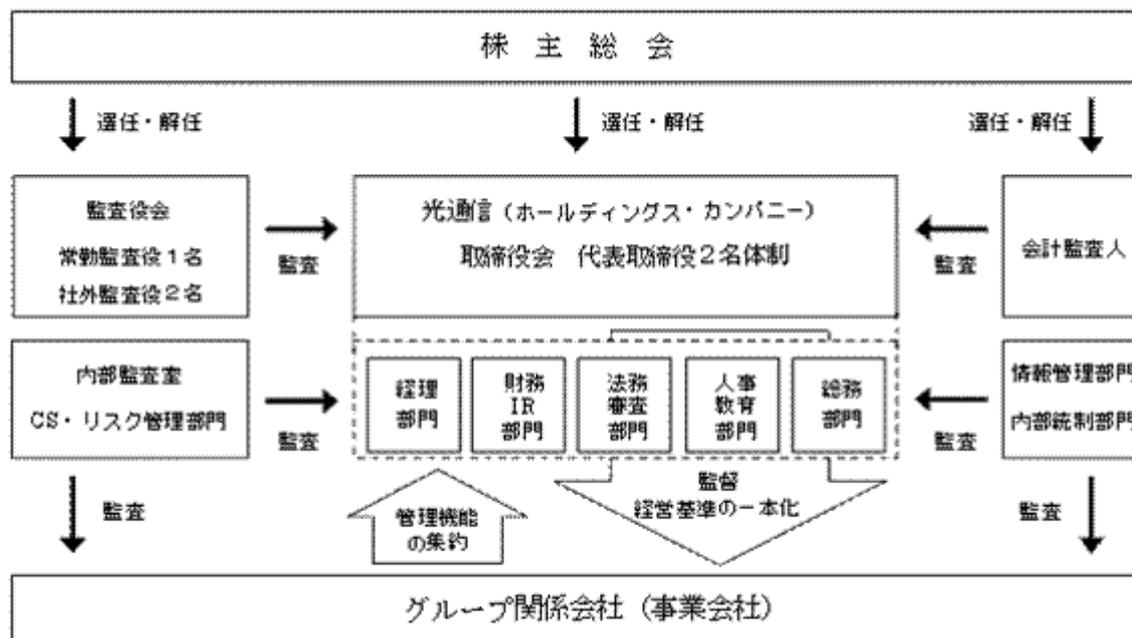
当社の経営体制は、取締役4名、監査役3名で構成されております。取締役の構成に関しては、経営の迅速化と牽制機能の強化を目的として、平成15年6月より代表取締役2名の体制を採っております。また、取締役会は平成24年6月22日現在代表取締役2名を含め4名で構成されておりますが、変化の激しい経営環境の中でも迅速な意思決定と業務執行を実行できるよう執行役員制度を導入し、取締役会の監督機能と執行役員の業務執行機能を分離し、取締役は「業務執行の監督」、執行役員は「業務執行」にそれぞれ専念できる環境を整備しております。

監査役会の構成に関しては、1名の常勤監査役と2名の社外監査役で構成され、経営に対する監査機能の強化を図っております。

各グループ関係会社のガバナンスに関しては、事業会社である各子会社の管理機能を持株親会社内のグループ管理部門に集約し、事業部門と管理部門を切り離すことで牽制機能を強化しており、管理機能毎に以下の施策を行っております。

- ・ 経理・財務・IR部門では、各子会社の経営状況を管理・分析し、経営に反映させるとともに、公正なディスクロージャーを行い、透明性の向上を図っております。
- ・ 法務・審査部門では、各子会社のコンプライアンスをチェックし、また、取引与信枠の設定や潜在リスクの発見・回避等経営リスクの管理を行っております。
- ・ 人事・教育部門では、グループで統一した研修課程を実施することで、社員の資質向上に努め、また成果主義の原則に基づく評価・報酬体系を導入することで、グループ会社間の公平性を図っております。
- ・ 総務・情報システム部門では、グループのシステム管理を一元的に行い、情報セキュリティー強化に努めております。
- ・ 内部監査室・CS・リスク管理部門では、グループ従業員へ適正な行動規範を浸透させ、またお客様等社外からのご指摘・ご意見を経営に反映し、従業員の資質向上及び顧客満足度(CS)の向上を目指しております。
- ・ 内部統制部門では、金融商品取引法の内部統制報告書制度への対応として、主に経理部門・業務管理部門の業務監査、内部統制評価を行っております。
- ・ 情報管理部門では、情報管理に関するグループ従業員の意識向上を目的に、定期的な社員研修や各営業所の実査を行っております。

以上に述べた事項を系統図によって示すと以下のとおりです。



(内部統制システムの整備の状況)

当社では、会社法に定める「取締役の職務の執行が法定及び定款に適合することを確保するための体制その他株主会社の業務の適正を確保するために必要なものとして法務省令で定める体制の整備」に関し、取締役会において、次のとおり決議しております。

取締役及び使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ・コンプライアンス担当取締役を定め、コンプライアンス体制に係る規定を制定し、取締役及び使用人が法令・定款・社内規定及びその他これに準ずる基本方針等を遵守した行動をとるための行動規範を定めるものとします。
- ・当社は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、断固とした姿勢・毅然とした態度で対応するものとし、当社が定める基本方針に則り、反社会的勢力との関係遮断に取り組むものとします。
- ・内部監査室・CS・リスク管理部門は、コンプライアンスの状況を監査し、これらの活動は定期的にコンプライアンス担当取締役もしくは代表取締役に報告するものとします。
- ・法令上疑義のある行為等について使用人が直接情報提供を行う窓口を設置するものとします。

取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役は、その職務の執行に係る文書につき、当社が定める文書取扱規定に従い、適切に保管及び管理するものとします。また、監査役から要請を受けた際には、直ちに文書の閲覧に応じるものとします。

損失の危険の管理に関する規定その他の体制

- ・当社のリスク管理を定めた危機管理規定を新たに制定し、リスクカテゴリーごとの担当部署を決め、継続的に管理するものとします。
- ・内部監査室・CS・リスク管理部門が各部署のリスク管理の状況を監査し、コンプライアンス担当取締役もしくは代表取締役に報告するものとします。
- ・リスクに関する情報は迅速かつ正確に関連部署に報告されるようにするものとします。

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

以下の経営管理システムを用いて、取締役の職務の執行の効率化を図るものとします。

- ・職務権限・意思決定ルール策定及び見直し
- ・取締役及び事業部長を構成員とする経営会議の実施
- ・予算管理規定に基づく中長期計画を策定し、事業部門ごとの業績目標と予算の設定、及び月次・四半期業績管理の実施
- ・経営会議及び取締役会による月次もしくは四半期業績のレビューと改善策の実施

企業集団における業務の適正を確保するための体制

子会社およびその系列会社のセグメント別の事業ごとにそれぞれの責任を負う担当部署および担当責任者を設置して責任体制を明確にするとともに、取締役、関連部署および責任者が連携して、法令遵守体制、リスク管理体制を構築するものとします。

監査役補助人の設置及び独立性を確保するための体制

- ・当社は、監査役から要請のあった場合、監査役の監査業務を補助する人員（以下「補助人」といいます。）を配置し、または、監査業務に適した監査役室を設置するものとします。ただし、当該要請に応じられない合理的な理由がある場合は、この限りではありません。
- ・補助人の任命・解任・人事異動・人事評価・懲戒処分、監査役会室の設置に関しては、あらかじめ監査役会の同意を得て、取締役会にて決定するものとします。
- ・補助人は、他の職務の兼任を妨げられないものとします。ただし、監査役から兼任する職務内容を変更するよう請求があった場合には、合理的な理由がない限り、当社は、当該補助人の兼任職務内容を変更するものとします。

取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

- ・取締役は、会社に著しい影響を及ぼすおそれのある事項、内部監査状況及びリスク管理に関する重要な事項、重大な法令・定款違反を監査役会に報告するものとします。
- ・取締役及び使用人は前項に定める重大な事実を発見した場合は、監査役に直接報告することができるものとします。

その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査の実効性を確保するため、取締役及び使用人は、監査役がその職務を執行するために必要とする報告を求めたときは、その職務の執行に関する事項の説明を行うものとします。

(内部監査及び監査役監査の状況)

当社は、上記で述べた各管理部門が当社グループ全体の業務の適正性を維持・管理・監督するとともに、内部監査室・CS・リスク管理部門及び情報管理部門(計25名)において、各管理部門も含めた当社グループ全体の定期内部監査を実施することで、より厳正で厳重な内部監査体制を構築しております。

監査役及び監査役会は、監査役会で決定された監査方針、監査計画に基づき、重要な会議への出席、当社グループの経営・業務全般への調査・ヒアリング等を通じて厳正な監査を行っております。

(会計監査の状況)

当社は、会計監査人として有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結しており、独立した立場からの公正な会計監査を受けております。当社の会計監査業務を執行した公認会計士(指定有限責任社員・業務執行社員)は台祐二、塚原克哲、中村太郎であり、同監査法人に所属しております。なお、上記業務を執行した公認会計士による監査年数は7年を超えておりません。また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士16名、その他18名であります。

(内部監査、監査役及び会計監査人の連携状況)

監査役会並びに内部監査は、重要な業務の執行などについて、それらの適法性・妥当性などを監視するため、会計監査人である有限責任 あずさ監査法人と情報共有・意見交換の会合を必要に応じて随時開催しております。

内部監査は、社内のリスク情報を吸い上げるための会合を月に一度開催しており、そこで挙げた問題点や対策を定期的に監査役会へ報告しております。

(社外監査役の状況)

社外監査役が当社グループの企業統治において果たす機能及び役割

高い独立性及び専門的な知見に基づく、客観的かつ適切な監視、監督により、当社グループの企業統治の有効性を高める機能及び役割を担っております。

社外監査役の選任状況に関する当社グループの考え方

当社は、社外監査役を選任するための独立性に関する明文化された基準または方針を定めておりません。

当社の現在の社外監査役は、高い独立性及び専門的な知見に基づき、客観的かつ適切な監視、監督といった期待される機能及び役割を十二分に果たし、当社グループの企業統治の有効性に大きく寄与しているものと考えております。なお、社外監査役である田中稔は公認会計士の資格を有しており、高野一郎は弁護士資格を有しております。社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係  
社外監査役は会計監査人である有限責任 あずさ監査法人及び内部監査担当と定期的に情報交換を実施しており、また、必要に応じて監査役会への出席を求め相互の関係が図られております。

また、社外監査役と内部統制担当は、共有すべき事項について相互に連携し、把握できるような関係にあります。社外監査役と当社との人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係

社外監査役である田中稔は、当社株式を保有しております。その他、当社グループ及び当社グループのその他の取締役、監査役と人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係を有しておりません。

(リスク管理体制の整備の状況)

当連結会計年度におきましては、情報化社会の発展や法的整備等の変化に対応し、個人及び法人顧客情報の管理体制の強化と見直しを図り、専属の情報管理部門を中心に様々な施策を実行いたしました。顧客情報の管理・破棄に関する社内規定の見直しや追加、セキュリティシステムの新規導入、各営業所の監査を実施するほか、連結子会社においても財団法人日本情報処理開発協会による「プライバシーマーク制度」を取得し、顧客情報の管理体制の整備を全体的なプロジェクトとして取り組んでおります。

(取締役の定数)

当社では、取締役は15名以内とする旨を定款に定めております。

(取締役の選任の決議要件)

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

( 社外取締役の状況 )

当社は、社外取締役を選任しておりません。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、取締役会の開催前に事前に議案及びその提案理由等の背景理由について、社外監査役に開示し、社外監査役から指摘を受けた事項については、事前に対応を講じた上で、取締役会に上程することを原則とすることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

( 役員の報酬等 )

提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額等

区 分	人数(人)	報酬等の種類別の総額(百万円)			報酬等の総額(百万円)
		基本報酬	ストック・オプション	役員退職慰労引当金繰入額	
取締役	3	41	-	9	51
監査役 (うち社外監査役)	3 ( 2 )	19 ( 12 )	- ( - )	1 ( - )	20 ( 12 )
計	6	60	-	11	71

(注) 当社の役員報酬の内容は、平成24年6月22日開催の第25回定時株主総会により取締役の報酬(賞与を含む)等の金額は、年額600百万円以内、平成12年11月22日開催の第13回定時株主総会により監査役の報酬の金額は、年額40百万円以内と定められております。

提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者はおりません。

役員の報酬等の額の決定に関する方針

役員の報酬等の額については、株主総会の決議により取締役及び監査役それぞれの報酬等の限度額が決定されております。各取締役の報酬額は、1年ごとに業績や経営内容を考慮し、取締役会の決議により決定し、各監査役については監査役の協議により決定しております。

( 会計監査人との責任限定契約の内容 )

当社と会計監査人は、会計監査人が監査契約の履行に伴い生じた当社の損害は会計監査人に悪意または重大な過失があった場合を除き、260百万円または当社の会計監査人としての在職中に報酬その他の職務執行の対価として当社から受け、また受けるべき財産上の利益の額の事業年度ごとの合計額のうち最も高い額に2を乗じて得た額のいずれか高い額をもって、会計監査人の損害賠償責任の限度とする責任限定契約を締結しております。

( 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項 )

自己株式の取得

当社は、機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己株式を取得できる旨を定款に定めております。

取締役の責任免除

当社は、取締役が期待される役割・機能を十分に発揮できるようにするため、取締役会の決議によって、取締役(取締役であった者を含む。)の会社法第423条第1項の賠償責任について法令に定める限度において免除することができる旨を定款で定めております。

監査役及び社外監査役の責任免除

当社は、監査役の責任を合理的な範囲に止め、その期待される役割を十分に果たし得るようにするため、取締役会の決議によって、監査役(監査役であった者を含む。)の会社法423条第1項の賠償責任について法令に定める限度において免除することができる旨を定款に定めております。

また、当社は、監査役の責任を合理的な範囲に止め、その期待される役割を十分に果たし得るようにするため、取締役会の決議によって、社外監査役との間で、会社法第423条第1項の賠償責任について法令に定める要件に該当する場合には、600百万円以上であらかじめ定めた額又は法令の定める限度額のいずれか高い額を限度としてその責任を負担するものとする契約を締結できる旨を定款で定めております。

会計監査人の責任免除

当社は、会計監査人の責任を合理的な範囲に止め、その期待される役割を十分に果たし得るようにするため、取締役会の決議によって、会計監査人（会計監査人であった者を含む。）の会社法第423条第1項の賠償責任について法令に定める限度において免除することができる旨を定款に定めております。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

（株主総会の特別決議要件）

当社は、会社法第309条第2項に定める特別決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

（剰余金の配当等の決定機関）

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、配当額の決定が経営政策と密接に関連し、高度の経営判断に属する事項であるため、取締役の判断に委ねることが合理的であると判断したためであります。

（株式の保有状況）

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 284銘柄

貸借対照表計上額の合計額 5,152百万円

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)フルキャストホールディングス	60,000	1,372	信頼関係の構築維持のため。
ジャパンベストレスキューシステム(株)	13,083	900	信頼関係の構築維持のため。
(株)京王ズホールディングス	8,380	322	信頼関係の構築維持のため。
オリコン(株)	7,817	313	信頼関係の構築維持のため。
(株)エスケーアイ	1,198,600	255	信頼関係の構築維持のため。
夢の街創造委員会(株)	3,414	139	信頼関係の構築維持のため。
日本テレホン(株)	5,111	129	信頼関係の構築維持のため。
(株)ネクシィーズ	36,720	102	信頼関係の構築維持のため。
(株)新星堂	1,531,250	78	信頼関係の構築維持のため。
(株)テイクアンドギヴ・ニーズ	12,711	75	信頼関係の構築維持のため。
(株)fonfun	515,000	74	信頼関係の構築維持のため。
(株)パンフィックネット	1,331	45	信頼関係の構築維持のため。

（注）(株)京王ズホールディングス他9銘柄は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、保有している銘柄が30銘柄に満たないため、全銘柄について記載しております。

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)フルキャストホールディングス	60,000	1,116	信頼関係の構築維持のため。
ジャパンベストレスキューシステム(株)	13,083	949	信頼関係の構築維持のため。
(株)エスケーアイ	1,198,600	280	信頼関係の構築維持のため。
オリコン(株)	7,817	264	信頼関係の構築維持のため。
(株)京王ズホールディングス	8,380	227	信頼関係の構築維持のため。
日本テレホン(株)	5,111	135	信頼関係の構築維持のため。
夢の街創造委員会(株)	3,414	134	信頼関係の構築維持のため。
(株)テイクアンドグブ・ニーズ	12,711	101	信頼関係の構築維持のため。
(株)fonfun	515,000	97	信頼関係の構築維持のため。
(株)ネクシィーズ	36,720	74	信頼関係の構築維持のため。
(株)新星堂	1,531,250	71	信頼関係の構築維持のため。
(株)パンフィックネット	1,331	50	信頼関係の構築維持のため。

(注) (株)エスケーアイ他9銘柄は、貸借対照表上計上額が資本金額の100分の1以下であります。保有している銘柄が30銘柄に満たないため、全銘柄について記載しております。

保有目的が純投資目的である投資株式

	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	-	-	-	-	-
非上場株式以外の株式	42,389	43,218	725	361	3,019

( 2 ) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	225	8	190	
連結子会社	139		160	
計	364	8	350	

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

社債発行に係るコンフォートレターの作成業務等についての対価を支払っております。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、当社の事業規模、業務の特性、監査時間等を総合的に勘案したものであります。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の財務諸表について有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適正に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入しております。

1【連結財務諸表等】  
 (1)【連結財務諸表】  
 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,400	15,719
受取手形及び売掛金	71,906	77,406
有価証券	30	751
たな卸資産	11,255	14,241
未収入金	6,313	6,630
繰延税金資産	2,967	4,807
その他	5,512	7,402
貸倒引当金	360	512
流動資産合計	113,024	126,446
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	7,175	8,126
減価償却累計額	2,841	3,413
建物及び構築物（純額）	4,334	4,713
機械装置及び運搬具	30	43
減価償却累計額	21	33
機械装置及び運搬具（純額）	9	10
工具、器具及び備品	3,572	4,767
減価償却累計額	2,802	3,653
工具、器具及び備品（純額）	769	1,114
土地	3,408	3,213
リース資産	635	43
減価償却累計額	448	15
リース資産（純額）	186	28
有形固定資産合計	8,708	9,080
無形固定資産		
のれん	5,243	5,526
その他	895	1,099
無形固定資産合計	6,138	6,625
投資その他の資産		
投資有価証券	68,085	64,524
長期貸付金	6,482	4,892
敷金及び保証金	4,534	5,234
破産更生債権等	2,019	2,390
繰延税金資産	17,719	10,021
その他	10,003	9,896
貸倒引当金	7,831	8,015
投資その他の資産合計	101,014	88,945
固定資産合計	115,861	104,651
資産合計	228,885	231,097

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 28,179	1 33,821
短期借入金	1, 6 22,579	1, 6 17,582
1年内償還予定の社債	1 624	1 8,249
未払金	1 38,532	1 42,780
未払法人税等	1,115	1,705
預り金	3,264	2,157
賞与引当金	752	1,240
役員賞与引当金	22	47
その他	4,025	5,319
流動負債合計	99,096	112,904
固定負債		
長期借入金	1, 6 3,714	1, 6 3,208
社債	1 14,120	1 5,864
役員退職慰労引当金	181	194
繰延税金負債	50	362
その他	2,309	1 2,397
固定負債合計	20,377	12,026
負債合計	119,474	124,930
純資産の部		
株主資本		
資本金	54,259	54,259
資本剰余金	25,293	25,293
利益剰余金	30,723	33,894
自己株式	11,875	17,467
株主資本合計	98,400	95,980
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,627	1,258
為替換算調整勘定	25	20
その他の包括利益累計額合計	1,601	1,238
新株予約権	1,281	1,226
少数株主持分	8,127	7,722
純資産合計	109,411	106,167
負債純資産合計	228,885	231,097

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	449,050	499,305
売上原価	241,870	274,670
売上総利益	207,179	224,634
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 204,584	<sup>1</sup> 206,262
営業利益	2,594	18,371
営業外収益		
受取利息	313	301
受取配当金	630	822
負ののれん償却額	315	293
助成金収入	76	307
その他	709	634
営業外収益合計	2,045	2,359
営業外費用		
支払利息	622	756
投資有価証券売却損	90	-
持分法による投資損失	1,022	1,609
投資事業組合等損失	707	115
貸倒引当金繰入額	244	99
その他	794	522
営業外費用合計	3,481	3,104
経常利益	1,159	17,627
特別利益		
投資有価証券売却益	2,009	733
子会社株式売却益	133	123
持分変動利益	786	316
貸倒引当金戻入額	155	-
賞与引当金戻入額	55	-
事業譲渡益	113	85
固定資産売却益	<sup>2</sup> 54	-
新株予約権戻入益	-	186
負ののれん発生益	162	-
段階取得に係る差益	98	-
特別利益合計	3,569	1,445
特別損失		
固定資産除売却損	<sup>3</sup> 399	<sup>3</sup> 543
投資有価証券評価損	854	1,545
投資有価証券売却損	138	49
子会社株式売却損	467	37
持分変動損失	152	10
のれん償却額	-	160
減損損失	<sup>4</sup> 177	<sup>4</sup> 22
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	197	-
貸倒引当金繰入額	-	170
災害による損失	119	-
その他	333	-
特別損失合計	2,840	2,540
税金等調整前当期純利益	1,888	16,532

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
法人税、住民税及び事業税	2,291	2,209
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	5 559	-
法人税等調整額	120	6,185
法人税等合計	1,611	8,395
少数株主損益調整前当期純利益	276	8,136
少数株主利益	977	308
当期純利益又は当期純損失( )	701	7,828

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	276	8,136
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,097	399
為替換算調整勘定	5	2
持分法適用会社に対する持分相当額	0	2
その他の包括利益合計	1,101	394
包括利益	825	7,741
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,783	7,465
少数株主に係る包括利益	958	276

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	54,259	54,259
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	54,259	54,259
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	25,293	25,293
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	25,293	25,293
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	34,721	30,723
当期変動額		
剰余金の配当	3,264	4,764
当期純利益又は当期純損失( )	701	7,828
連結範囲の変動	32	108
当期変動額合計	3,998	3,171
当期末残高	30,723	33,894
<b>自己株式</b>		
当期首残高	9,875	11,875
当期変動額		
自己株式の取得	2,000	5,591
当期変動額合計	2,000	5,591
当期末残高	11,875	17,467
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	104,399	98,400
当期変動額		
剰余金の配当	3,264	4,764
当期純利益又は当期純損失( )	701	7,828
連結範囲の変動	32	108
自己株式の取得	2,000	5,591
当期変動額合計	5,998	2,420
当期末残高	98,400	95,980

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	2,698	1,627
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,071	368
当期変動額合計	1,071	368
当期末残高	1,627	1,258
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	14	25
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	11	5
当期変動額合計	11	5
当期末残高	25	20
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	2,684	1,601
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,082	363
当期変動額合計	1,082	363
当期末残高	1,601	1,238
<b>新株予約権</b>		
当期首残高	1,089	1,281
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	192	55
当期変動額合計	192	55
当期末残高	1,281	1,226
<b>少数株主持分</b>		
当期首残高	5,873	8,127
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,254	405
当期変動額合計	2,254	405
当期末残高	8,127	7,722
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	114,046	109,411
当期変動額		
剰余金の配当	3,264	4,764
当期純利益又は当期純損失（ ）	701	7,828
連結範囲の変動	32	108
自己株式の取得	2,000	5,591
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,363	824
当期変動額合計	4,634	3,244
当期末残高	109,411	106,167

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,888	16,532
減価償却費	1,799	2,544
のれん償却額	781	1,191
負ののれん発生益	162	-
貸倒引当金の増減額（は減少）	591	857
受取利息及び受取配当金	944	1,124
支払利息	622	756
子会社株式売却損益（は益）	333	86
投資有価証券売却損益（は益）	1,780	684
投資有価証券評価損益（は益）	908	1,698
投資事業組合等損益（は益）	707	115
持分法による投資損益（は益）	1,022	1,609
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	197	-
段階取得に係る差損益（は益）	98	-
事業譲渡損益（は益）	113	85
減損損失	177	22
災害損失	119	-
固定資産除売却損益（は益）	344	543
売上債権の増減額（は増加）	13,766	6,997
たな卸資産の増減額（は増加）	1,291	1,313
未収入金の増減額（は増加）	412	244
仕入債務の増減額（は減少）	1,798	5,326
未払金の増減額（は減少）	1,981	4,253
その他の流動資産の増減額（は増加）	2,385	673
その他の流動負債の増減額（は減少）	165	501
その他の営業活動によるキャッシュ・フロー	394	65
小計	8,241	25,152
利息及び配当金の受取額	1,083	1,338
利息の支払額	593	762
法人税等の支払額	12,406	4,719
法人税等の還付額	7,449	788
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,709	21,796

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	3,596	2,679
有形及び無形固定資産の売却による収入	727	29
事業譲渡による収入	<sup>4</sup> 776	-
投資有価証券の取得による支出	20,983	5,949
投資有価証券の売却による収入	16,136	5,263
子会社株式の取得による支出	214	551
子会社株式の売却による収入	11	198
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	<sup>2</sup> 2,043	<sup>2</sup> 264
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	<sup>2</sup> 511	<sup>2</sup> 721
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	<sup>3</sup> 697	<sup>3</sup> 20
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	<sup>3</sup> 429	<sup>3</sup> 58
貸付けによる支出	3,701	1,092
貸付金の回収による収入	4,700	2,318
敷金保証金の払込による支出	457	896
敷金及び保証金の回収による収入	818	478
その他の投資活動によるキャッシュ・フロー	942	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,103	2,458
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	2,080	5,738
長期借入れによる収入	5,216	2,280
長期借入金の返済による支出	1,297	3,541
社債の発行による収入	13,379	-
社債の償還による支出	207	451
少数株主による株式払込による収入	1,477	2
自己株式の取得による支出	2,000	5,591
配当金の支払額	3,264	4,773
少数株主への配当金の支払額	164	1,135
リース債務の返済による支出	492	219
その他の財務活動によるキャッシュ・フロー	-	935
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,728	18,233
現金及び現金同等物に係る換算差額	91	37
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	4,175	1,067
現金及び現金同等物の期首残高	19,651	15,386
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	89	-
現金及び現金同等物の期末残高	<sup>1</sup> 15,386	<sup>1</sup> 16,454

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の状況

連結子会社の数

127社

主要な連結子会社の名称

「第1企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しております。

(2) 非連結子会社の状況

主要な非連結子会社の名称

(株)コール・トゥ・ウェブ栃木

(株)沖縄アイ・イーグループ

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社はいずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため連結の範囲から除外しております。

(3) 連結の範囲の変更

(株)Deiba company他4社は新規設立により、連結の範囲に加えております。

(株)タウンサポート他3社は株式の取得により、連結の範囲に加えております。

(株)アドバンスサポート他6社は株式の追加取得により持分法適用の範囲から除外し、連結の範囲に加えております。

(株)ネクストライフ他4社は当該会社の親会社を連結子会社としたことにより、連結の範囲に加えております。

(株)プライムステージ他5社は当該会社の親会社を連結子会社としたことにより持分法適用の範囲から除外し、連結の範囲に加えております。

(株)オフィスエイトサポート他2社は株式の売却により、連結の範囲から除外しております。

(株)ノースブライト他3社は株式の一部売却により連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に加えております。

(株)スフィードは第三者割当増資により連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に加えております。

(株)コール・トゥ・ウェブ他8社は他の会社に吸収合併されたことにより、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の状況

持分法適用の非連結子会社及び関連会社数

非連結子会社 4社

関連会社 105社

主要な会社等の名称

(株)エフティコミュニケーションズ

(株)インタア・ホールディングス

(2) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の状況

主要な会社等の名称

(有)八幡温泉

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社は、それぞれ連結当期純利益及び利益剰余金に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 持分法適用の範囲の変更

(株)スズカコミュニケーションズ他6社は新規設立により、持分法適用の範囲に加えております。

(株)グローバル・スコープ他17社は株式の取得により、持分法適用の範囲に加えております。

(株)ノースブライト他3社は株式の一部売却により連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に加えております。

(株)スフィードは第三者割当増資により連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に加えております。

(株)サティスフィード他1社は当該会社の保有会社を連結子会社としたことにより、持分法適用の範囲に加えております。

(株)ズーム他39社は株式の売却により、持分法適用の範囲から除外しております。

(株)アドバンスサポート他6社は株式の追加取得により持分法適用の範囲から除外し、連結の範囲に加えております。

(株)プライムステージ他5社は当該会社の親会社を連結子会社としたことにより持分法適用の範囲から除外し、連結の範囲に加えております。

(株)エーコーシステム他1社は他の会社に吸収合併されたことにより、持分法適用の範囲から除外しております。

(株)ベストクリエイイト他1社は他の会社との株式交換により、持分法適用の範囲から除外しております。

(株)フルキャストマーケティング他1社は第三者割当増資により、持分法適用の範囲から除外しております。

(株)シェアリーチャイナは影響力が低下したことにより、持分法適用の範囲から除外しております。

(4) 持分法適用手続きに関する特記事項

持分法適用非連結子会社及び関連会社のうち、事業年度が連結会計年度と異なる会社については、各社の事業年度に係る決算書又は仮決算に基づく決算書を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度は、以下を除き連結会計年度と一致しております。

(1) (株)P P Rの事業年度が2月1日から1月末日であり、連結財務諸表の作成にあたっては、3月末日での仮決算に基づく決算書を使用しております。

(2) 大連愛光通信服務有限公司の事業年度が1月1日から12月末日であり、連結財務諸表の作成にあたっては、3月末日での仮決算に基づく決算書を使用しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

その他有価証券

イ. 時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理しております。また、売却原価は、移動平均法により計算しております。）

ロ. 時価のないもの

移動平均法による原価法

ハ. 投資事業有限責任組合等への出資

入手可能な直近の決算書に基づき、組合等の損益及びその他有価証券の評価差額のうち、当社グループの持分相当額を投資事業組合等損益及びその他有価証券評価差額金として投資有価証券に加減する方法によっております。

たな卸資産

商品

総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）は定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

機械装置及び運搬具 2～6年

工具、器具及び備品 3～20年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備え、支給見込額に基づき計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備え、支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職による退職慰労金の支出に備え、役員退職慰労金規程による期末要支給額を計上しております。

(4) のれん及び負ののれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その投資効果の発現する期間を個別に見積もり、20年以内の合理的な期間で均等償却を行っております。なお、平成22年3月31日以前に発生した負ののれんについても、20年以内の合理的な期間で均等償却を行っております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、原則として税抜方式によっております。

連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

【会計方針の変更】

(1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

なお、これによる影響については、「1株当たり情報」に記載しております。

【表示方法の変更】

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めておりました「助成金収入」は、「営業外収益」の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より区分掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に表示しておりました785百万円は、「助成金収入」76百万円、「その他」709百万円と組み替えております。

前連結会計年度において、「営業外費用」に区分掲記しておりました「支払手数料」(当連結会計年度55百万円)は、重要性が低下したため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度において、「営業外費用」の「支払手数料」に表示しておりました66百万円は、「その他」として組み替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

## 【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

## 1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
定期預金	130百万円	27百万円
たな卸資産	335	717
建物及び構築物	1,089	1,403
工具、器具及び備品	4	356
土地	2,386	2,166
投資有価証券	4,662	4,687
子会社株式	3,297	3,297

なお、子会社株式は、連結貸借対照表上消去しております。

上記に対応する債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
買掛金	1,970百万円	2,838百万円
短期借入金	846	846
1年内償還予定の社債	254	29
未払金	18	507
長期借入金	2,276	1,430
社債	390	204
その他	-	449

上記のうち、定期預金、たな卸資産、建物及び構築物及び土地を銀行からの資金調達、製品供給取引及び請負取引から生じる債務(当期末残高2,998百万円)に対して担保提供しております。当該債務にかかる根抵当権の極度額は2,236百万円です。

## 2 たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
商品及び製品	10,880百万円	13,463百万円
販売用不動産	335	717
仕掛品	6	1
原材料及び貯蔵品	33	58

## 3 関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券	11,005百万円	10,662百万円

## 4 当社及び当社連結子会社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行9行(前連結会計年度末は5行)と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額	27,400百万円	30,250百万円
借入実行残高	19,900	14,000
差引額	7,500	16,250

5 のれん及び負ののれんの表示

のれん及び負ののれんは相殺して表示しております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
のれん	6,863百万円	6,824百万円
負ののれん	1,620	1,298
純額	5,243	5,526

6 連結子会社である㈱パイオンの長期借入金のうち252百万円(1年内返済予定額を含む)には、下記のいずれかに抵触した場合、該当する融資契約上の債務について期限の利益を喪失する財務制限条項が付されております。

同社の各連結会計年度末の連結貸借対照表における純資産の部の金額について、前連結会計年度末比80%以上を維持すること。

同社の各連結会計年度末の連結損益計算書における営業損益について、黒字を維持すること。

同社の各連結会計年度末の連結有利子負債合計額(劣後特約に基づく借入債務を除く)について、E B I T D Aの6倍に相当する金額以下に維持すること。

連結子会社である㈱パイオンの長期借入金のうち1,524百万円(1年内返済予定額を含む)には、下記のいずれかに抵触した場合、該当する融資契約上の債務について期限の利益を喪失する財務制限条項が付されております。

同社の各連結会計年度末の連結貸借対照表における純資産の部の金額について、平成22年3月決算期末日における連結貸借対照表上の純資産の部の金額の70%以上を維持すること。

同社の各連結会計年度末の連結損益計算書における営業損益が2期連続して損失とならないようにすること。

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
販売手数料	146,770百万円	145,670百万円
給料	16,633	18,730
雑給	3,361	2,895
地代家賃	3,764	4,193
賞与引当金繰入額	752	1,146
役員賞与引当金繰入額	22	47
貸倒引当金繰入額	2,162	2,334

2 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
建物及び構築物	14百万円	-百万円
工具、器具及び備品	39	-
その他	0	-
計	54	-

3 固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
建物及び構築物	197百万円	337百万円
工具、器具及び備品	57	84
ソフトウェア	135	85
その他	8	35
計	399	543

4 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

場所	用途	種類
東京都豊島区他	遊休資産	工具、器具及び備品等
閉鎖事業・閉鎖営業所	-	のれん・ソフトウェア等

当社グループは、報告セグメントを基礎とし、賃貸用資産および遊休資産については個々の資産ごとにグルーピングしております。

当連結会計年度において、当社グループの事業計画の変更により生じた遊休資産及び事業の撤退等により回収可能価額が著しく減少した資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（177百万円）として特別損失に計上いたしました。

その内訳は以下のとおりであります。

建物及び構築物	5百万円
工具、器具及び備品	48百万円
ソフトウェア	71百万円
のれん	52百万円

なお、遊休資産の回収可能価額は市場価格等による正味売却価額により評価しております。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

重要な該当事項はありません。

5 法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額は以下の金額を純額表示しております。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
法人税等の更正、決定等による納付税額	852百万円	- 百万円
法人税等の更正、決定等による還付税額	1,411	-
計	559	-

（連結包括利益計算書関係）

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

その他有価証券評価差額金：

当期発生額	801百万円
組替調整額	615
税効果調整前	185
税効果額	213
その他有価証券評価差額金	399

為替換算調整勘定：

当期発生額	2
為替換算調整勘定	2

持分法適用会社に対する持分相当額：

当期発生額	5
組替調整額	7
持分法適用会社に対する持分相当額	2

その他の包括利益合計 394

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	58,349,642			58,349,642
合計	58,349,642			58,349,642
自己株式				
普通株式(注)	3,935,167	1,215,003		5,150,170
合計	3,935,167	1,215,003		5,150,170

(注) 自己株式の株式数の増加は、平成22年6月15日及び平成22年11月11日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得及び単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
提出会社(親会社)	ストック・オプションとしての 新株予約権						1,063
連結子会社	ストック・オプションとしての 新株予約権						218
	合計						1,281

(注) 新株予約権の当連結会計年度末残高のうち、権利行使期間の初日が到来していないものは600百万円(提出会社(親会社)533百万円、連結子会社66百万円)であります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年5月18日 取締役会	普通株式	3,264	60	平成22年3月31日	平成22年6月9日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの  
平成23年5月17日開催の取締役会において次のとおり決議いたしました。

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年5月17日 取締役会	普通株式	3,191	利益剰余金	60	平成23年3月31日	平成23年6月8日

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数（株）	当連結会計年度増加株式数（株）	当連結会計年度減少株式数（株）	当連結会計年度末株式数（株）
発行済株式				
普通株式	58,349,642			58,349,642
合計	58,349,642			58,349,642
自己株式				
普通株式（注）	5,150,170	2,686,873		7,837,043
合計	5,150,170	2,686,873		7,837,043

（注）自己株式の株式数の増加は、平成23年6月14日、平成23年11月10日、平成24年1月23日及び平成24年3月15日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得及び単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数				当連結会計年度末残高（百万円）
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
提出会社（親会社）	ストック・オプションとしての新株予約権						1,142
連結子会社	ストック・オプションとしての新株予約権						83
	合計						1,226

（注）新株予約権の当連結会計年度末残高のうち、権利行使期間の初日が到来していないものは415百万円（提出会社（親会社）378百万円、連結子会社37百万円）であります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成23年5月17日 取締役会	普通株式	3,191	60	平成23年3月31日	平成23年6月8日
平成23年11月10日 取締役会	普通株式	1,572	30	平成23年9月30日	平成23年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの  
平成24年5月18日開催の取締役会において次のとおり決議いたしました。

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成24年5月18日 取締役会	普通株式	2,020	利益剰余金	40	平成24年3月31日	平成24年6月8日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## 1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
現金及び預金勘定	15,400百万円	15,719百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	48	26
有価証券に含まれるMMF	30	751
預け金	3	9
現金及び現金同等物	15,386	16,454

## 2. 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
流動資産	5,126百万円	7,508百万円
固定資産	1,692	1,963
のれん	2,844	752
流動負債	2,586	5,909
固定負債	1,467	1,371
持分法による投資評価額	1,901	1,308
少数株主持分	669	1,031
負ののれん発生益	160	-
段階取得に係る差益	98	-
株式の取得価額	2,779	603
現金及び現金同等物	1,247	1,061
差引：取得による収入（は支出）	1,531	457

## 3. 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
流動資産	6,647百万円	371百万円
固定資産	1,852	471
のれん	581	130
流動負債	4,092	689
固定負債	1,366	17
少数株主持分	1,257	23
株式の売却価額	1,733	161
現金及び現金同等物	1,465	199
差引：売却による収入（は支出）	267	38

## 4. 事業の譲渡及び資産の譲渡に関連して減少した資産の主な内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
流動資産	173百万円	-
固定資産	847	-

(リース取引関係)

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主に車輛(機械装置及び運搬具)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業投資計画等に照らして、必要な資金を主に銀行借入や社債発行により調達しております。また、余剰資金に関しては安全性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主に長期保有目的の投資有価証券および業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。また、取引先企業等に対し貸付を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。

借入金、社債は、主に事業投資に係る資金調達を目的としたものであります。このうちの一部は、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

・信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、債権管理規程に従い、営業債権および貸付金について、各事業部門における営業管理部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

・市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業等)の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

・資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預金	15,400	15,400	-
受取手形及び売掛金	71,906	71,906	-
未収入金	6,313	6,313	-
有価証券及び投資有価証券	50,098	49,655	443
長期貸付金 1	7,926		
貸倒引当金 2	1,879		
	6,047	5,978	68
資産合計	149,765	149,253	511
支払手形及び買掛金	28,179	28,179	-
未払金	38,532	38,532	-
預り金	3,264	3,264	-
短期借入金	20,868	20,868	-
長期借入金 1	5,426	5,427	1
社債 1	14,745	14,757	12
負債合計	111,016	111,030	13

1 1年以内に回収予定の長期貸付金、1年内返済予定の長期借入金および1年内償還予定の社債も含めております。

2 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預金	15,719	15,719	-
受取手形及び売掛金	77,406	77,406	-
未収入金	6,630	6,630	-
有価証券及び投資有価証券	51,024	50,457	566
長期貸付金 1	6,926		
貸倒引当金 2	1,910		
	5,016	5,030	14
資産合計	155,796	155,244	552
支払手形及び買掛金	33,821	33,821	-
未払金	42,780	42,780	-
預り金	2,157	2,157	-
短期借入金	15,469	15,469	-
長期借入金 1	5,321	5,337	16
社債 1	14,113	14,156	42
負債合計	113,663	113,722	58

1 1年以内に回収予定の長期貸付金、1年内返済予定の長期借入金および1年内償還予定の社債も含めております。

2 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

- (1) 現金及び預金、受取手形及び売掛金、未収入金  
これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (2) 有価証券及び投資有価証券（関係会社株式を含む）  
これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、有価証券に含まれるマネー・マネージメント・ファンドは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (3) 長期貸付金  
これらの時価は、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

- (1) 支払手形及び買掛金、未払金、預り金  
これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (2) 短期借入金  
これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (3) 長期借入金  
これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- (4) 社債  
これらの時価は、元利金の合計額を当該社債の残存期間および信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
非上場株式等	18,016	14,251

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	15,400	-	-	-
受取手形及び売掛金	71,906	-	-	-
未収入金	6,313	-	-	-
長期貸付金	1,250	4,229	95	8
合計	94,870	4,229	95	8

貸倒引当金を計上している債権(2,341百万円)に関しては、償還予定額に含めておりません。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 （百万円）	1年超 5年以内 （百万円）	5年超 10年以内 （百万円）	10年超 （百万円）
現金及び預金	15,719	-	-	-
受取手形及び売掛金	77,406	-	-	-
未収入金	6,630	-	-	-
長期貸付金	1,951	2,538	129	-
合計	101,708	2,538	129	-

貸倒引当金を計上している債権（2,306百万円）に関しては、償還予定額に含めておりません。

4. 社債、及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照ください。

（有価証券関係）

前連結会計年度（平成23年3月31日）

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額 （百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	38,713	34,567	4,146
	(2) 債券			
	(3) その他	242	234	7
	小計	38,956	34,802	4,154
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	7,829	8,735	906
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計	7,829	8,735	906
合計		46,785	43,537	3,247

（注）非上場株式等（連結貸借対照表計上額10,324百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

種類	売却額 （百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1) 株式	14,481	985	176
(2) 債券			
(3) その他			
合計	14,481	985	176

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、時価のあるその他有価証券について54百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、当該有価証券について連結会計年度末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合に全て減損処理を行っております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	31,747	26,717	5,029
	(2) 債券			
	(3) その他	55	50	5
	小計	31,802	26,767	5,034
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	15,104	15,773	669
	(2) 債券			
	(3) その他	921	921	0
	小計	16,025	16,695	669
合計		47,828	43,463	4,365

(注) 非上場株式等（連結貸借対照表計上額6,778百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	4,102	411	25
(2) 債券			
(3) その他			
合計	4,102	411	25

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、時価のあるその他有価証券について152百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、当該有価証券について連結会計年度末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合に全て減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度（平成23年3月31日現在）

重要な該当事項はありません。

当連結会計年度（平成24年3月31日現在）

重要な該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額、権利不行使による失効における利益計上額及び科目名

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
販売費及び一般管理費	213	131
営業外収益	20	-
新株予約権戻入益	-	186

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

提出会社

	平成18年8月25日 取締役 会決議分 第10回ストック・オプション	平成18年8月25日 取締役 会決議分 第11回ストック・オプション	平成19年3月30日 取締役 会決議分 第12回ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社取締役 3名	当社従業員 6名	当社従業員 167名
株式の種類及び付与数	普通株式 300,000株	普通株式 18,000株	普通株式 142,000株
付与日	平成18年9月11日	平成18年9月11日	平成19年4月16日
権利確定条件	対象者が会社もしくは会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。	対象者が会社もしくは会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。	対象者が会社もしくは会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。
対象勤務期間	平成18年9月11日～ 平成20年8月25日	平成18年9月11日～ 平成20年8月25日	平成19年4月16日～ 平成21年3月30日
権利行使期間	平成20年8月26日～ 平成28年8月25日	平成20年8月26日～ 平成28年8月25日	平成21年3月31日～ 平成29年3月30日

	平成20年2月26日 取締役 会決議分 第13回ストック・オプション	平成20年6月25日 取締役 会決議分 第14回ストック・オプション	平成20年6月25日 取締役 会決議分 第15回ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社従業員 17名	当社取締役 1名	当社従業員 26名
株式の種類及び付与数	普通株式 23,000株	普通株式 100,000株	普通株式 48,000株
付与日	平成20年3月12日	平成20年7月11日	平成20年7月11日
権利確定条件	対象者が会社もしくは会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。	対象者が会社もしくは会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。	対象者が会社もしくは会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。
対象勤務期間	平成20年3月12日～ 平成23年2月26日	平成20年7月11日～ 平成23年6月25日	平成20年7月11日～ 平成23年6月25日
権利行使期間	平成23年2月27日～ 平成30年2月26日	平成23年6月26日～ 平成30年6月25日	平成23年6月26日～ 平成30年6月25日

	平成20年11月13日 取締役 役会決議分 第16回ストック・オプション	平成22年2月12日 取締役 役会決議分 第17回ストック・オプション	平成22年6月14日 取締役 役会決議分 第19回ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社従業員 14名	当社従業員 3名	当社従業員 11名
株式の種類及び付与数	普通株式 16,000株	普通株式 25,000株	普通株式 75,000株
付与日	平成20年12月1日	平成22年3月1日	平成22年6月30日
権利確定条件	対象者が会社もしくは会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。	対象者が会社もしくは会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。	対象者が会社もしくは会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。
対象勤務期間	平成20年12月1日～ 平成23年11月13日	平成22年3月1日～ 平成25年2月12日	平成22年6月30日～ 平成25年6月14日
権利行使期間	平成23年11月14日～ 平成30年11月13日	平成25年2月13日～ 平成32年2月12日	平成25年6月15日～ 平成32年6月14日

連結子会社

e-まちタウン(株)	平成18年8月11日 取締役 役会決議分 第1回ストック・オプション	平成18年11月29日 取締役役会決議分 第2回ストック・オプション	平成20年2月27日 取締役役会決議分 第3回ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当該子会社取締役 3名	当該子会社従業員 61名	当該子会社従業員 15名
株式の種類及び付与数	当該子会社普通株式 480株	当該子会社普通株式 240株	当該子会社普通株式 148株
付与日	平成18年8月28日	平成18年12月13日	平成20年3月14日
権利確定条件	対象者が当該子会社もしくは当該子会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。	対象者が当該子会社もしくは当該子会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。	対象者が当該子会社もしくは当該子会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。
対象勤務期間	平成18年8月28日～ 平成20年8月27日	平成18年12月13日～ 平成20年12月12日	平成20年3月14日～ 平成23年2月27日
権利行使期間	平成20年8月28日～ 平成23年8月27日	平成20年12月13日～ 平成23年12月12日	平成23年2月28日～ 平成30年2月27日

e-まちタウン(株)	平成21年1月13日 取締役会決議分 第4回ストック・オプション	平成21年1月13日 取締役会決議分 第5回ストック・オプション	平成21年7月3日 取締役会決議分 第6回ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当該子会社取締役 3名	当該子会社従業員 11名	当該子会社取締役 2名
株式の種類及び付与数	当該子会社普通株式 120株	当該子会社普通株式 118株	当該子会社普通株式 238株
付与日	平成21年1月29日	平成21年1月29日	平成21年7月21日
権利確定条件	対象者が当該子会社もしくは当該子会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。	対象者が当該子会社もしくは当該子会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。	対象者が当該子会社もしくは当該子会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。
対象勤務期間	平成21年1月29日～平成24年1月13日	平成21年1月29日～平成24年1月13日	平成21年7月21日～平成24年7月3日
権利行使期間	平成24年1月14日～平成31年1月13日	平成24年1月14日～平成31年1月13日	平成24年7月4日～平成29年7月3日

e-まちタウン(株)	平成22年5月17日 取締役会決議分 第7回ストック・オプション	平成22年5月17日 取締役会決議分 第8回ストック・オプション	平成23年3月7日 取締役会決議分 第9回ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当該子会社従業員 7名	当該子会社の関係会社の取締役 2名 当該子会社の関係会社の従業員 1名	当該子会社の関係会社の取締役 1名
株式の種類及び付与数	当該子会社普通株式 92株	当該子会社普通株式 39株	当該子会社普通株式 240株
付与日	平成22年6月2日	平成22年6月2日	平成23年3月23日
権利確定条件	対象者が当該子会社もしくは当該子会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。	対象者が当該子会社もしくは当該子会社の関係会社（新株予約権発行日時点において対象者が所属する会社をいう。）の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。	対象者が当社、当該子会社もしくは当該子会社の子会社の取締役もしくは従業員の地位を保有していることを要する。
対象勤務期間	平成22年6月2日～平成25年5月17日	平成22年6月2日～平成25年5月17日	平成23年3月23日～平成26年3月7日
権利行使期間	平成25年5月18日～平成32年5月17日	平成25年5月18日～平成32年5月17日	平成26年3月8日～平成33年3月7日

(株)パイオン	平成15年8月28日 定時株主総会特別決議分 第1回ストック・オプション	平成20年11月28日及び 平成20年12月12日 取締役会決議分 第3回ストック・オプション	平成20年11月28日及び 平成20年12月12日 取締役会決議分 第4回ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当該子会社取締役 7名 当該子会社監査役 4名 当該子会社従業員 107名	当該子会社取締役 3名	当該子会社従業員 9名
株式の種類及び付与数	当該子会社普通株式 1,500株	当該子会社普通株式 3,900株	当該子会社普通株式 3,700株
付与日	平成15年9月1日	平成20年12月29日	平成20年12月29日
権利確定条件	権利確定条件は付されてお りません。	対象者が当該子会社もしく は当該子会社の子会社の取 締役もしくは従業員の地位 を保有していることを要す る。	対象者が当該子会社もしく は当該子会社の子会社の取 締役もしくは従業員の地位 を保有していることを要す る。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはあり ません。	平成20年12月29日～ 平成23年11月28日	平成20年12月29日～ 平成23年11月28日
権利行使期間	平成17年10月1日～ 平成24年9月30日	平成23年11月29日～ 平成30年11月28日	平成23年11月29日～ 平成30年11月28日

(株)パイオン	平成23年6月29日 取締役会決議分 第5回ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当該子会社取締役 4名
株式の種類及び付与数	当該子会社普通株式 2,800株
付与日	平成23年7月14日
権利確定条件	対象者が当該子会社もしく は当該子会社の子会社の取 締役もしくは従業員の地位 を保有していることを要す る。
対象勤務期間	平成23年7月14日～ 平成26年6月29日
権利行使期間	平成26年6月30日～ 平成33年6月29日

ユニバーサルソリューションシステムズ(株)	平成16年3月30日 臨時株主総会決議分 第1回ストック・オプション	平成17年3月24日 臨時株主総会決議分 第3回ストック・オプション	平成17年3月24日 臨時株主総会決議分 第4回ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当該子会社取締役 4名 当該子会社従業員 1名	当該子会社執行役員 2名 当該子会社従業員 44名	当該子会社従業員 6名
株式の種類及び付与数	当該子会社普通株式 1,230株	当該子会社普通株式 1,350株	当該子会社普通株式 150株
付与日	平成16年3月30日	平成17年6月9日	平成18年3月23日
権利確定条件	付与日以降、権利確定日まで で継続して勤務していること。	付与日以降、権利確定日まで で継続して勤務していること。	付与日以降、権利確定日まで で継続して勤務していること。
対象勤務期間	平成16年3月30日～ 平成19年3月31日	平成17年6月9日～ 平成19年3月31日	平成18年3月23日～ 平成19年3月31日
権利行使期間	平成19年4月1日～ 平成27年3月31日	平成19年4月1日～ 平成27年2月28日	平成19年4月1日～ 平成27年2月28日

ユニバーサルソリューションシステムズ(株)	平成21年6月25日 定時株主総会決議分 第7回ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当該子会社取締役 4名
株式の種類及び付与数	当該子会社普通株式 8,500株
付与日	平成21年12月10日
権利確定条件	付与日以降、権利確定日まで で継続して勤務していること。
対象勤務期間	平成21年12月10日～ 平成23年11月26日
権利行使期間	平成23年11月27日～ 平成31年11月22日

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数及び単価情報については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

イ．提出会社

	平成18年8月25日 取締役会決議分 第10回ストック・オプション	平成18年8月25日 取締役会決議分 第11回ストック・オプション	平成19年3月30日 取締役会決議分 第12回ストック・オプション
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	300,000	15,000	122,100
権利確定	-	-	-
権利行使	-	-	-
失効	-	3,000	4,700
未行使残	300,000	12,000	117,400

	平成20年2月26日 取締役 役会決議分 第13回ストック・オプション	平成20年6月25日 取締役 役会決議分 第14回ストック・オプション	平成20年6月25日 取締役 役会決議分 第15回ストック・オプション
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	-	100,000	35,000
付与	-	-	-
失効	-	-	1,000
権利確定	-	100,000	34,000
未確定残	-	-	-
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	20,000	-	-
権利確定	-	100,000	34,000
権利行使	-	-	-
失効	1,000	-	2,000
未行使残	19,000	100,000	32,000

	平成20年11月13日 取締役 役会決議分 第16回ストック・オプション	平成22年2月12日 取締役 役会決議分 第17回ストック・オプション	平成22年6月14日 取締役 役会決議分 第19回ストック・オプション
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	7,000	25,000	75,000
付与	-	-	-
失効	-	25,000	74,000
権利確定	7,000	-	-
未確定残	-	-	1,000
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	-	-	-
権利確定	7,000	-	-
権利行使	-	-	-
失効	-	-	-
未行使残	7,000	-	-

ロ．連結子会社

e-まちタウン(株)	平成18年8月11日 取締役会決議分 第1回ストック・オプション	平成18年11月29日 取締役会決議分 第2回ストック・オプション	平成20年2月27日 取締役会決議分 第3回ストック・オプション
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	480	182	126
権利確定	-	-	-
権利行使	-	-	-
失効	480	182	8
未行使残	-	-	118

e-まちタウン(株)	平成21年1月13日 取締役会決議分 第4回ストック・オプション	平成21年1月13日 取締役会決議分 第5回ストック・オプション	平成21年7月3日 取締役会決議分 第6回ストック・オプション
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	77	95	238
付与	-	-	-
失効	-	11	-
権利確定	77	84	-
未確定残	-	-	238
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	-	-	-
権利確定	77	84	-
権利行使	-	-	-
失効	-	-	-
未行使残	77	84	-

e-まちタウン(株)	平成22年5月17日 取締役会決議分 第7回ストック・オプション	平成22年5月17日 取締役会決議分 第8回ストック・オプション	平成23年3月7日 取締役会決議分 第9回ストック・オプション
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	72	39	240
付与	-	-	-
失効	17	-	-
権利確定	-	-	-
未確定残	55	39	240

(株)パイオン	平成15年8月28日 定時株主総会特別決議分 第1回ストック・オプション	平成20年11月28日及び 平成20年12月12日 取締役会決議分 第3回ストック・オプション	平成20年11月28日及び 平成20年12月12日 取締役会決議分 第4回ストック・オプション
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	-	3,900	2,400
付与	-	-	-
失効	-	-	-
権利確定	-	3,900	2,400
未確定残	-	-	-
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	411	-	-
権利確定	-	3,900	2,400
権利行使	-	-	113
失効	9	-	515
未行使残	402	3,900	1,772

(株)パイオン	平成23年6月29日 取締役会決議分 第5回ストック・オプション
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	-
付与	2,800
失効	-
権利確定	-
未確定残	2,800

ユニバーサルソリューション システムズ(株)	平成16年3月30日 臨時株主総会決議分 第1回ストック・オプション	平成17年3月24日 臨時株主総会決議分 第3回ストック・オプション	平成17年3月24日 臨時株主総会決議分 第4回ストック・オプション
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	1,230	1,350	150
権利確定	-	-	-
権利行使	-	-	-
失効	-	-	-
未行使残	1,230	1,350	150

ユニバーサルソリューション システムズ(株)	平成21年6月25日 定時株主総会決議分 第7回ストック・オプション
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	8,500
付与	-
失効	1,000
権利確定	7,500
未確定残	-
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	-
権利確定	7,500
権利行使	-
失効	7,500
未行使残	-

単価情報

イ. 提出会社

	平成18年8月25日 取締役会決議分 第10回 ストック・オプション	平成18年8月25日 取締役会決議分 第11回 ストック・オプション	平成19年3月30日 取締役会決議分 第12回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	6,180	6,180	5,474
行使時平均株価 (円)	-	-	-
付与日における 公正な評価単価 (円)	2,677	2,677	1,781

	平成20年2月26日 取締役会決議分 第13回 ストック・オプション	平成20年6月25日 取締役会決議分 第14回 ストック・オプション	平成20年6月25日 取締役会決議分 第15回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	3,914	3,785	3,785
行使時平均株価 (円)	-	-	-
付与日における 公正な評価単価 (円)	1,277	1,330	1,330

	平成20年11月13日 取締役会決議分 第16回 ストック・オプション	平成22年2月12日 取締役会決議分 第17回 ストック・オプション	平成22年6月14日 取締役会決議分 第19回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	1,680	1,617	1,809
行使時平均株価 (円)	-	-	-
付与日における 公正な評価単価 (円)	644	559	520

ロ．連結子会社

e-まちタウン(株)	平成18年8月11日 取締役 役会決議分 第1回 ストック・オプション	平成18年11月29日 取締役 役会決議分 第2回 ストック・オプション	平成20年2月27日 取締役 役会決議分 第3回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	535,185	519,809	877,695
行使時平均株価 (円)	-	-	-
付与日における 公正な評価単価 (円)	239,773	210,758	310,234

e-まちタウン(株)	平成21年1月13日 取締役 役会決議分 第4回 ストック・オプション	平成21年1月13日 取締役 役会決議分 第5回 ストック・オプション	平成21年7月3日 取締役 役会決議分 第6回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	243,180	243,180	396,614
行使時平均株価 (円)	-	-	-
付与日における 公正な評価単価 (円)	95,486	95,486	157,401

e-まちタウン(株)	平成22年5月17日 取締役 役会決議分 第7回 ストック・オプション	平成22年5月17日 取締役 役会決議分 第8回 ストック・オプション	平成23年3月7日 取締役 役会決議分 第9回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	307,026	307,026	329,479
行使時平均株価 (円)	-	-	-
付与日における 公正な評価単価 (円)	123,406	123,185	121,928

(株)パイオン	平成15年8月28日 定時 株主総会特別決議分 第1回 ストック・オプション	平成20年11月28日及び 平成20年12月12日 取締役 役会決議分 第3回 ストック・オプション	平成20年11月28日及び 平成20年12月12日 取締役 役会決議分 第4回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	34,763	5,416	5,416
行使時平均株価 (円)	-	-	-
付与日における 公正な評価単価 (円)	-	2,714	2,714

(株)パイオン	平成23年6月29日 取締役 役会決議分 第5回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	12,768
行使時平均株価 (円)	-
付与日における 公正な評価単価 (円)	8,611

ユニバーサルソリューション システムズ(株)	平成16年3月30日 臨時 株主総会決議分 第1回 ストック・オプション	平成17年3月24日 臨時 株主総会決議分 第3回 ストック・オプション	平成17年3月24日 臨時 株主総会決議分 第4回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	15,578	25,202	25,202
行使時平均株価 (円)	-	-	-
付与日における 公正な評価単価 (円)	-	-	-

ユニバーサルソリューション システムズ(株)	平成21年6月25日 定時 株主総会決議分 第7回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	5,101
行使時平均株価 (円)	-
付与日における 公正な評価単価 (円)	1,887

3. 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

- (1) 使用した算定技法  
ブラック・ショールズ式
- (2) 主な基礎数値及び見積方法

連結子会社

(株)パイオン	平成23年6月29日取締役会決議分 ストック・オプション
予想残存期間 (注) 1	6.461年間
株価変動性 (注) 2	84.30%
予想配当率 (注) 3	0.404%
無リスク利子率 (注) 4	0.582%

- (注) 1. 合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。
2. 株式上場日から付与日までの株価実績に基づき算定しております。
  3. 過去の配当実績によっております。
  4. 各予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

4. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金損金算入限度超過額	5,144百万円	7,249百万円
投資有価証券評価損否認	19,755	4,412
投資事業組合等損失否認	207	293
貸倒損失否認	2,439	2,230
連結会社間内部利益消去	1,405	1,177
繰越欠損金	25,936	18,895
その他	1,866	2,273
繰延税金資産小計	56,755	36,532
評価性引当額	34,062	19,254
繰延税金資産合計	22,693	17,278
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,475	1,542
連結会社間内部利益消去	580	1,268
繰延税金負債合計	2,056	2,811
繰延税金資産の純額	20,636	14,466

なお、連結納税制度を採用しており、評価性引当額の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法人税	22,451百万円	11,330百万円
住民税	5,159	2,486
事業税	6,451	5,436
合計	34,062	19,254

前連結会計年度及び当連結会計年度の繰延税金資産の純額は連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	2,967百万円	4,807百万円
固定資産 - 繰延税金資産	17,719	10,021
固定負債 - 繰延税金負債	50	362

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.6%	40.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	7.9	0.5
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	5.2	0.7
住民税均等割等	9.4	0.5
のれん償却額	13.3	2.9
持分法による投資損失	22.0	3.9
持分変動損益	15.7	0.7
評価性引当額の増減	12.1	4.0
子会社との税率差異	1.2	0.1
税率変更による繰延税金資産の減額修正	-	8.3
その他	0.5	0.8
税効果会計適用後の法人税等の負担率	85.3	50.7

### 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.6%から平成24年4月1日に開始する連結会計年度年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は1,145百万円減少し、法人税等調整額が1,379百万円増加しております。

#### （企業結合等関係）

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

重要な該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

重要な該当事項はありません。

#### （資産除去債務関係）

前連結会計年度末（平成23年3月31日）

重要な該当事項はありません。

当連結会計年度末（平成24年3月31日）

重要な該当事項はありません。

#### （賃貸等不動産関係）

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

重要な該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

重要な該当事項はありません。

#### （セグメント情報等）

##### 【セグメント情報】

##### 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別の事業本部を置き、各事業本部は、取り扱う製品・サービスについて主に国内における事業戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、事業本部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「法人事業」、「SHOP事業」、「保険事業」及び「メディア広告事業」の4つを報告セグメントとしております。

「法人事業」は、OA機器の販売、各種通信サービスの加入取次、法人向け移動体通信サービスの提供及びその他法人顧客向けサービスの提供を行っております。「SHOP事業」は、店舗にて携帯電話端末及び周辺機器等の販売を行っております。「保険事業」は、「第三分野」保険を中心とした保険代理店事業を行っております。「メディア広告事業」は、モバイル広告を中心とした広告枠の仕入れ及び販売とサイト運営を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額 (注)3
	法人事業	SHOP 事業	保険事業	メディア 広告事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	183,171	251,978	8,585	5,003	448,738	311	449,050		449,050
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,134	1,688	52	113	2,988		2,988	(2,988)	
計	184,306	253,666	8,637	5,116	451,726	311	452,038	(2,988)	449,050
セグメント利益又は 損失( )	4,860	9,204	997	410	5,752	27	5,724	(3,130)	2,594
セグメント資産	69,867	74,390	8,068	3,619	155,946	1,293	157,239	71,646	228,885
その他の項目									
減価償却費	887	550	105	40	1,584	0	1,585	214	1,799
持分法適用会社への 投資額	8,694	800	277	187	9,959	7	9,967		9,967
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	627	908	44	124	1,705		1,705	1,890	3,596

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 3,130百万円は、セグメント間取引消去128百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 3,258百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額71,646百万円は、セグメント間取引消去 694百万円及び各報告セグメントに配分していない全社資産72,340百万円であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない長期投資資産（投資有価証券）であります。

3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	法人事業	SHOP 事業	保険事業	メディア 広告事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	178,611	304,663	9,387	6,455	499,117	188	499,305		499,305
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,573	2,154	-	40	3,769		3,769	(3,769)	
計	180,184	306,817	9,387	6,496	502,886	188	503,074	(3,769)	499,305
セグメント利益	10,815	9,923	1,149	366	22,255	18	22,274	(3,902)	18,371
セグメント資産	60,282	83,859	8,031	3,295	155,468	1,144	156,612	74,485	231,097
その他の項目									
減価償却費	1,348	801	115	68	2,333	0	2,334	209	2,544
持分法適用会社への投資額	8,068	677	296	37	9,080	4	9,084		9,084
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	959	1,204	181	105	2,451		2,451	227	2,679

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
2. 調整額の内容は以下のとおりであります。
- (1) セグメント利益の調整額 3,902百万円は、セグメント間取引消去 267百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 3,635百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額74,485百万円は、セグメント間取引消去 1,323百万円及び各報告セグメントに配分していない全社資産75,808百万円であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない長期投資資産（投資有価証券）であります。
3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメントの区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ソフトバンクモバイル(株)	127,180	法人事業・SHOP事業

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメントの区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ソフトバンクモバイル(株)	128,373	法人事業・SHOP事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計
	法人事業	SHOP事業	保険事業	メディア広告事業	計		
減損損失	108	-	68	-	177	-	177

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計
	法人事業	SHOP事業	保険事業	メディア広告事業	計		
減損損失	-	-	-	22	22	-	22

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	合計
	法人事業	SHOP 事業	保険事業	メディア 広告事業	計		
当期償却額	303	618	171	4	1,097	-	1,097
当期末残高	1,861	4,298	693	10	6,863	-	6,863

なお、平成22年3月31日以前に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	合計
	法人事業	SHOP 事業	保険事業	メディア 広告事業	計		
当期償却額	57	237	20	-	315	-	315
当期末残高	82	1,528	9	-	1,620	-	1,620

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	合計
	法人事業	SHOP 事業	保険事業	メディア 広告事業	計		
当期償却額	680	604	171	28	1,485	-	1,485
当期末残高	2,267	3,621	601	334	6,824	-	6,824

なお、平成22年3月31日以前に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	合計
	法人事業	SHOP 事業	保険事業	メディア 広告事業	計		
当期償却額	44	240	9	-	293	-	293
当期末残高	9	1,288	-	-	1,298	-	1,298

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

重要な該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の役員及びその近親者等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	ひかり法律事務所（注1）	東京都豊島区		法律事務所		法律顧問	法律事務の委任	26	未払金	2
							事務所の賃貸	1	未収入金	0

（注）1．ひかり法律事務所は役員である重田康光の近親者が代表を務める法律事務所であります。

2．取引条件及び取引条件の決定方針等

（1）法律事務の委任については旧弁護士報酬規程等を参考にして取引条件を決定しております。

（2）事務所の賃貸料は近隣の取引実勢に基づいて決定しております。

(3) 連結財務諸表提出会社の重要な子会社の役員及び近親者等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
重要な子会社の役員	青木 毅			当社子会社代表取締役	(0.00)		資金の返済	2	長期貸付金	29

(4) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

(5) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の役員及びその近親者等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	ひかり法律事務所 （注1）	東京都豊島区		法律事務所		法律顧問	法律事務の委任	16	-	-
							事務所の賃貸	1	未収入金	0

（注）1．ひかり法律事務所は役員である重田康光の近親者が代表を務める法律事務所であります。

2．取引条件及び取引条件の決定方針等

（1）法律事務の委任については旧弁護士報酬規程等を参考にして取引条件を決定しております。

（2）事務所の賃貸料は近隣の取引実勢に基づいて決定しております。

(3) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

(4) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり純資産額 1,879円 76銭	1株当たり純資産額 1,924円 65銭
1株当たり当期純損失金額 13円 02銭	1株当たり当期純利益金額 149円 58銭
	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 149円 42銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、当期純損失であるため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額又は純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額又は純損失金額		
当期純利益又は純損失( ) (百万円)	701	7,828
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益又は純損失( ) (百万円)	701	7,828
期中平均株式数(株)	53,844,243	52,332,124
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)	-	8
(うち連結子会社の潜在株式による調整額) (百万円)	-	8
普通株式増加数(株)	-	794
(うち新株予約権)(株)	-	(794)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権9種類(新株予約権の個数6,991個) 連結子会社発行の新株予約権13種類(新株予約権の個数2,539個)	新株予約権7種類(新株予約権の個数5,814個) 連結子会社発行の新株予約権10種類(新株予約権の個数4,802個)

(注) 「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度における会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度については遡及処理しております。

なお、この会計方針の変更による前連結会計年度の影響は、当期純損失であったためありません。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得について)

当社は、平成24年5月18日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

機動的な資本政策を遂行し、株主への利益還元を推進するため。

2. 自己株式の取得内容

(1) 取得する株式の種類

当社普通株式

(2) 取得する株式の総数

1,000,000株(上限)

(発行済株式数(自己株式を除く)に対する割合 2.00%)

(3) 株式の取得価額の総額

2,000百万円(上限)

(4) 株式の取得期間

平成24年5月21日から平成24年9月30日まで

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
(株)光通信	第8回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)	22.9.16	8,000	8,000 (8,000)	2.70	なし	24.9.14
(株)光通信	第9回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)	23.2.7	5,500	5,500	3.00	なし	25.8.7
(株)スフィード	子会社無担保転換社債型 新株予約権付社債	23.2.17	330 (330)				
(株)セリオス	子会社普通社債	19.4.27 ~20.7.31	915 (294)	463 (249)	0.45 ~0.93	あり	24.6.25 ~29.4.28
(株)アドバンスサ ポート	子会社普通社債	23.9.27		150	1.10	なし	28.9.27
合計			14,745 (624)	14,113 (8,249)			

(注) 1. ( )内書は、一年内の償還予定額であります。

2. 連結決算日後の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
8,249	5,524	14	14	164	148

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	20,868	15,469	0.9	
1年以内に返済予定の長期借入金	1,711	2,112	1.9	
1年以内に返済予定のリース債務	718	460		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,714	3,208	1.9	平成25年~33年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,084	817		平成25年~30年
その他有利子負債				
未払金		485	1.6	
長期未払金(1年以内に返済予定のものを除く。)		449	0.5	平成25年~26年
計	28,097	23,004		

(注) 1. 平均利率は、当期末における借入金の利率を加重平均して算出してあります。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に按分しているため、記載していません。

3. 1年以内に返済予定のものを除く、長期借入金、リース債務及び長期未払金の連結決算日後の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	1,719	1,041	389	36	21
リース債務	373	237	135	63	8
長期未払金	449				

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	115,444	233,208	368,805	499,305
税金等調整前四半期(当期)純利益金額(百万円)	2,110	6,787	11,040	16,532
四半期(当期)純利益金額(百万円)	794	3,895	4,701	7,828
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	14.94	73.75	89.31	149.58

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額(円)	14.94	59.09	15.42	60.84

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,865	3,570
売掛金	2 1,129	2 1,812
有価証券	399	751
原材料及び貯蔵品	2	2
未収入金	2 3,565	2 9,140
短期貸付金	535	807
関係会社短期貸付金	8,690	12,001
前払費用	458	333
繰延税金資産	657	2,737
未収還付法人税等	305	1,370
その他	159	88
流動資産合計	18,770	32,616
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 2,401	1 2,351
減価償却累計額	685	664
建物(純額)	1,715	1,687
構築物	18	13
減価償却累計額	15	12
構築物(純額)	2	1
車両運搬具	1	1
減価償却累計額	1	1
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品	362	1 707
減価償却累計額	166	458
工具、器具及び備品(純額)	195	248
土地	1 3,164	1 3,164
リース資産	338	26
減価償却累計額	236	12
リース資産(純額)	101	13
有形固定資産合計	5,180	5,116
無形固定資産		
のれん	2	1
ソフトウェア	124	162
電話加入権	30	30
無形固定資産合計	157	194
投資その他の資産		
投資有価証券	1 51,252	1 50,939
関係会社株式	21,427	21,697
関係会社社債	179	824
関係会社出資金	58	58
長期貸付金	678	378
従業員長期貸付金	829	596

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
関係会社長期貸付金	34,960	26,623
破産更生債権等	95	118
長期前払費用	43	32
営業差入保証金	60	60
敷金及び保証金	2,274	2,258
長期未収入金	1,419	1,727
繰延税金資産	13,678	6,202
その他	288	223
貸倒引当金	10,293	14,703
投資その他の資産合計	116,953	97,039
固定資産合計	122,291	102,349
資産合計	141,061	134,966
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	1	6
短期借入金	14,383	8,451
関係会社短期借入金	8,293	9,422
1年内償還予定の社債	-	8,000
未払金	2 4,089	1, 2 4,736
未払費用	50	74
未払法人税等	86	122
前受金	-	6
預り金	415	314
賞与引当金	196	357
その他	356	197
流動負債合計	27,872	31,688
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1 550	1 299
社債	13,500	5,500
役員退職慰労引当金	176	188
その他	925	1,086
固定負債合計	15,152	7,073
負債合計	43,024	38,762
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	54,259	54,259
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	25,847	25,847
資本剰余金合計	25,847	25,847
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
繰越利益剰余金	26,736	29,454
利益剰余金合計	26,736	29,454
自己株式	11,875	17,467
株主資本合計	94,968	92,094

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
評価・換算差額等		
其他有価証券評価差額金	2,005	2,966
評価・換算差額等合計	2,005	2,966
新株予約権	1,063	1,142
純資産合計	98,036	96,203
負債純資産合計	141,061	134,966

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高		
販売手数料	6,150	8,470
商品売上高	-	588
業務手数料	7,228	9,607
売上高合計	13,379	18,666
売上原価		
商品売上原価	-	378
業務手数料原価	419	351
売上原価合計	419	729
売上総利益	12,960	17,937
販売費及び一般管理費		
販売手数料	232	244
広告宣伝費	71	105
役員報酬	64	60
給料	2,552	2,584
賞与	106	76
賞与引当金繰入額	196	357
役員退職慰労引当金繰入額	11	11
法定福利費	261	372
旅費及び交通費	148	159
通信費	192	179
賃借料	768	705
租税公課	224	276
減価償却費	231	186
業務委託手数料	1,081	379
その他	1,865	2,079
販売費及び一般管理費合計	8,008	7,778
営業利益	4,951	10,158
営業外収益		
受取利息	384	368
有価証券利息	13	18
受取配当金	1,047	6,823
受取賃貸料	1,955	1,640
受取保証料	483	618
その他	220	279
営業外収益合計	4,104	9,748
営業外費用		
支払利息	434	210
社債利息	139	386
投資有価証券売却損	87	-
貸倒引当金繰入額	2,697	4,412
支払賃借料	1,692	1,316
その他	641	306
営業外費用合計	5,694	6,633
経常利益	3,361	13,274

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>特別利益</b>		
投資有価証券売却益	781	394
関係会社株式売却益	1,002	313
貸倒引当金戻入額	675	-
関係会社清算益	351	-
特別利益合計	2,811	708
<b>特別損失</b>		
固定資産除売却損	15	117
投資有価証券売却損	120	6
関係会社株式売却損	221	33
投資有価証券評価損	443	822
関係会社株式評価損	1,637	509
その他	61	-
特別損失合計	2,499	1,488
税引前当期純利益	3,673	12,493
法人税、住民税及び事業税	1,263	208
法人税等調整額	840	5,219
法人税等合計	2,104	5,011
当期純利益	1,568	7,482

【売上原価明細書】

売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	
		金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)
商品売上原価	2	-	-	378	51.9
合計		-	-	378	51.9
業務手数料原価 経費		419	100.0	351	48.1
合計		419	100.0	351	48.1
売上原価		419	100.0	729	100.0

(注) 1. 原価計算の方法

実際原価による個別原価計算であります。

2. 主な内訳は以下のとおりであります。

区分	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
通信費	188	139
減価償却費	134	85

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	54,259	54,259
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	54,259	54,259
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	25,847	25,847
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	25,847	25,847
資本剰余金合計		
当期首残高	25,847	25,847
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	25,847	25,847
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	28,432	26,736
当期変動額		
剰余金の配当	3,264	4,764
当期純利益	1,568	7,482
当期変動額合計	1,695	2,717
当期末残高	26,736	29,454
利益剰余金合計		
当期首残高	28,432	26,736
当期変動額		
剰余金の配当	3,264	4,764
当期純利益	1,568	7,482
当期変動額合計	1,695	2,717
当期末残高	26,736	29,454
自己株式		
当期首残高	9,875	11,875
当期変動額		
自己株式の取得	2,000	5,591
当期変動額合計	2,000	5,591
当期末残高	11,875	17,467
株主資本合計		
当期首残高	98,664	94,968
当期変動額		
剰余金の配当	3,264	4,764
当期純利益	1,568	7,482
自己株式の取得	2,000	5,591
当期変動額合計	3,696	2,873
当期末残高	94,968	92,094

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	2,945	2,005
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	939	960
当期変動額合計	939	960
当期末残高	2,005	2,966
評価・換算差額等合計		
当期首残高	2,945	2,005
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	939	960
当期変動額合計	939	960
当期末残高	2,005	2,966
新株予約権		
当期首残高	919	1,063
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	143	79
当期変動額合計	143	79
当期末残高	1,063	1,142
純資産合計		
当期首残高	102,528	98,036
当期変動額		
剰余金の配当	3,264	4,764
当期純利益	1,568	7,482
自己株式の取得	2,000	5,591
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	795	1,040
当期変動額合計	4,491	1,833
当期末残高	98,036	96,203

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

(2) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(3) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理しております。また、売却原価は、移動平均法により計算しております。）

時価のないもの

移動平均法による原価法

投資事業有限責任組合等への出資

入手可能な直近の決算書に基づき、組合等の損益及びその他有価証券の評価差額のうち当社の持分相当額を投資事業組合等損益及びその他有価証券評価差額金として投資有価証券に加減する方法によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

車両運搬具 2～6年

工具、器具及び備品 3～20年

(2) 少額減価償却資産

取得価額が10万円以上20万円未満の減価償却資産については、3年間で均等償却をしております。

(3) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(4) 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備え、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備え、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職による退職慰労金の支出に備え、役員退職慰労金規程による期末要支給額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

【会計方針の変更】

(1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用)

当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

なお、これによる影響については、「1株当たり情報」に記載しております。

【表示方法の変更】

(貸借対照表)

前事業年度において、「流動資産」の「その他」に含めておりました「未収還付法人税等」は、資産の総額の100分の1を超えたため、当事業年度より区分掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度において、「流動資産」の「その他」に表示しておりました465百万円は、「未収還付法人税等」305百万円、「その他」159百万円として組み替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
建物	830	959
工具、器具及び備品	-	207
土地	2,153	2,153
投資有価証券	4,662	4,687
計	7,646	8,009

上記に対応する債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
連結子会社の買掛金	1,948百万円	2,800百万円
短期借入金	333	333
未払金	-	187
連結子会社の未払金	18	21
長期借入金	500	167
その他	-	173

上記のうち、建物及び土地を、連結子会社の製品供給取引及び請負取引から生じる債務(当期末残高2,780百万円)に対して担保提供しております。当該債務にかかる根抵当権の極度額は1,166百万円です。

2 関係会社項目

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
流動資産		
売掛金	86百万円	6百万円
未収入金	1,888	7,686
流動負債		
未払金	1,558	1,405

3 保証債務

次の関係会社について、仕入等債務保証及び銀行借入保証を行っております。

(1) 仕入等債務保証

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
テレコムサービス(株)	14,544百万円	テレコムサービス(株) 16,004百万円
(株)メンバーズモバイル	5,813	(株)メンバーズモバイル 3,358
(株)Hi-Bit	4,357	(株)Hi-Bit 2,453
(株)ビジネスパートナー	862	(株)NAC (株)ビジネスパートナー 853 768
他5社	372	他13社 2,008
計	25,950	計 25,445

(2) 銀行借入保証

	前事業年度 (平成23年3月31日)		当事業年度 (平成24年3月31日)
(株)パイオン	3,228百万円	テレコムサービス(株)	3,219百万円
(株)メンバーズモバイル	2,500	(株)メンバーズモバイル	2,500
テレコムサービス(株)	1,100	(株)パイオン(注)	2,324
他5社	589	他5社	677
計	7,418	計	8,720

(注) 上記金額のうち、280百万円は保証予約を行っております。

- 4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行(前事業年度末は3行)と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額	20,500百万円	20,800百万円
借入実行残高	14,000	7,500
差引額	6,500	13,300

(損益計算書関係)

- 1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上高	7,895百万円	売上高	10,462百万円
販売手数料	192	受取配当金	6,016
受取利息	300	受取賃借料	1,470
受取配当金	432	受取保証料	618
受取賃借料	1,843		
受取保証料	483		

- 2 固定資産除売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
(除却損)		(除却損)	
建物	15百万円	建物	61百万円
		構築物	0
		工具、器具及び備品	28
		リース資産	26
計	15	計	117

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式(注)	3,935,167	1,215,003		5,150,170
合計	3,935,167	1,215,003		5,150,170

(注)自己株式の株式数の増加は、平成22年6月15日及び平成22年11月11日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得及び単元未満株式の買取りによる増加であります。

当事業年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式(注)	5,150,170	2,686,873		7,837,043
合計	5,150,170	2,686,873		7,837,043

(注)自己株式の株式数の増加は、平成23年6月14日、平成23年11月10日、平成24年1月23日及び平成24年3月15日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得及び単元未満株式の買取りによる増加であります。

(リース取引関係)

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主に車輛(車両運搬具)であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2.固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(有価証券関係)

前事業年度(平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	3,135	9,833	6,698
関連会社株式	1,048	1,624	575
合計	4,183	11,458	7,274

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額(百万円)
子会社株式	15,043
関連会社株式	2,200

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

当事業年度(平成24年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	3,135	10,181	7,046
関連会社株式	1,048	1,217	168
合計	4,183	11,398	7,214

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額(百万円)
子会社株式	15,391
関連会社株式	2,122

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金損金算入限度超過額	4,193百万円	5,243百万円
投資有価証券評価損否認	2,820	2,836
関係会社株式評価損否認	15,768	13,860
投資事業組合等損失否認	66	58
貸倒損失否認	2,138	1,912
連結法人間譲渡損繰延	72	63
繰越欠損金	10,548	5,104
その他	790	800
繰延税金資産小計	36,399	29,879
評価性引当額	20,587	19,287
繰延税金資産合計	15,811	10,592
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,475	1,651
繰延税金負債合計	1,475	1,651
繰延税金資産の純額	14,336	8,940
なお、連結納税制度を採用しており、評価性引当額の内訳は以下のとおりであります。		
法人税	14,030百万円	12,820百万円
住民税	2,624	2,658
事業税	3,932	3,807
合計	20,587	19,287

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.6%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	10.6	
住民税均等割等	0.1	
評価性引当額	25.8	
その他	0.5	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	57.2	

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.6%から平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は674百万円減少し、法人税等調整額が908百万円増加しております。

( 1株当たり情報 )

前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,822円83銭	1株当たり純資産額	1,881円91銭
1株当たり当期純利益金額	29円14銭	1株当たり当期純利益金額	142円98銭
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	29円14銭	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	142円98銭

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	1,568	7,482
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,568	7,482
期中平均株式数(株)	53,844,243	52,332,124
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	794
(うち新株予約権)	(-)	(794)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権9種類(新株予約権の個数6,991個)	新株予約権7種類(新株予約権の個数5,814個)

(注) 「会計方針の変更」に記載のとおり、当事業年度における会計方針の変更は遡及適用され、前事業年度については遡及処理しております。

会計方針の変更を適用しなかった場合の、前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、29円14銭であります。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得について)

当社は、平成24年5月18日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

機動的な資本政策を遂行し、株主への利益還元を推進するため。

2. 自己株式の取得内容

(1) 取得する株式の種類

当社普通株式

(2) 取得する株式の総数

1,000,000株(上限)

(発行済株式数(自己株式を除く)に対する割合 2.00%)

(3) 株式の取得価額の総額

2,000百万円(上限)

(4) 株式の取得期間

平成24年5月21日から平成24年9月30日まで

【附属明細表】  
【有価証券明細表】  
【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資 有価証券	その他 有価証券	Berkshire Hathaway Inc.	921	9,227
		(株)キーエンス	411,288	8,003
		Coca-Cola Co.	506,480	3,080
		Johnson&Johnson Inc.	517,540	2,805
		(株)ディーガイア	16,817	2,308
		WellsFargo&Co.	777,560	2,181
		Kraft Foods Inc.	587,618	1,835
		Procter&Gamble Co.	238,820	1,319
		Wal-mart Store Inc.	256,800	1,291
		(株)ベルパーク	10,720	1,252
		Sanofi-Aventis SA American Depo	356,700	1,136
		(株)フルキャストホールディングス	60,000	1,116
		ジャパンベストレスキューシステム(株)	13,083	949
		NECモバイルリング(株)	307,700	879
		Becton Dickinson and Company	127,000	810
		Medtronic Inc.	215,500	694
		Conoco Phillips	109,800	685
		Abbott Laboratories	120,900	609
		(株)インターメスティック	2,000	552
		その他339銘柄	12,425,656	7,631
		計	17,062,903	48,371

【債券】

種類及び銘柄			券面総額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資 有価証券	その他 有価証券	( 転換社債型新株予約権付社債 ) 7 銘柄	127	127
計			127	127

【その他】

種類及び銘柄			投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)
有価証券	その他 有価証券	( 証券投資信託受益証券 ) ノムラ外貨MMF	913,926,115	751
		小計	913,926,115	751
投資 有価証券	その他 有価証券	( 投資事業組合出資金 ) SBIプロードバンドファンド1号投資事業組合 その他 9 銘柄	11 -	657 1,065
		( 証券投資信託受益証券 ) 4 銘柄	-	692
		( 匿名組合出資金 ) 1 銘柄	-	25
		小計	-	2,440
		計	-	3,191

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	2,401	116	166	2,351	664	75	1,687
構築物	18	-	4	13	12	0	1
車両運搬具	1	-	-	1	1	0	0
工具、器具及び備品	362	349	4	707	458	96	248
土地	3,164	-	-	3,164	-	-	3,164
リース資産	338	13	325	26	12	22	13
有形固定資産計	6,286	479	499	6,266	1,150	194	5,116
無形固定資産							
のれん	-	-	-	4	2	0	1
ソフトウェア	-	-	-	324	162	59	162
電話加入権	-	-	-	30	-	-	30
無形固定資産計	-	-	-	359	165	60	194
長期前払費用	100	7	36	71	39	18	32

(注) 1. 当期増減額のうち主なものは、本社移転に伴う除却による減少であります。

2. 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	10,293	6,021	10	1,599	14,703
賞与引当金	196	357	196	-	357
役員退職慰労引当金	176	11	-	-	188

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、債権の回収等による戻入額1,599百万円であります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	-
預金の種類	
当座預金	3,389
普通預金	175
定期預金	2
その他	3
合計	3,570

ロ．売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
ソフトバンクモバイル(株)	1,793
その他	18
合計	1,812

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(A) + (D) 2 (B) 366
1,129	9,261	8,578	1,812	82.6	58.1

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

ハ．原材料及び貯蔵品

品目	金額(百万円)
用度品他雑品	2
合計	2

二．未収入金

相手先	金額（百万円）
(株)オービーエム	1,510
(株)ビジネスパートナー	1,116
(株)インフォサービス	1,101
(株)ハローコミュニケーションズ	881
(株)ジェイ・コミュニケーション	865
その他	3,663
合計	9,140

ホ．関係会社短期貸付金

相手先	金額（百万円）
(株)ハローコミュニケーションズ	5,303
テレコムサービス(株)	1,460
(株)ネットワークコンサルティング	1,121
(株)ビジネスパートナー	740
(株)キャリアコミュニティパートナーズ	614
その他	2,761
合計	12,001

固定資産

イ．関係会社株式

銘柄	金額（百万円）
(株)オービーエム	4,544
(株)ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング	2,992
(株)パイオン	1,946
(株)ジェイ・コミュニケーション	1,878
(株)ベストパートナー	1,790
その他 81銘柄	8,545
合計	21,697

ロ．関係会社長期貸付金

銘柄	金額（百万円）
(株)コンタクトセンター	3,901
(株)Hi-Bit	3,791
(株)インフォサービス	1,865
(株)パイオン	1,780
(株)N A C	1,706
その他	13,576
合計	26,623

流動負債

イ．買掛金

相手先	金額（百万円）
Infomark Co.	4
その他	1
合計	6

ロ．短期借入金

相手先	金額（百万円）
(株)みずほコーポレート銀行	5,000
(株)三井住友銀行	2,000
(株)りそな銀行	500
(株)新銀行東京	333
(株)常陽銀行	300
その他	318
合計	8,451

ハ．関係会社短期借入金

相手先	金額（百万円）
(株)アイ・イーグループ	4,021
(株)オービーエム	1,154
(株)ジェイ・コミュニケーション	752
(株)オービーエム・ジャパン	612
(株)ワールドテレマーケティング	430
その他	2,451
合計	9,422

二．1年内償還予定の社債

内訳は1．連結財務諸表（1）連結財務諸表 連結附属明細表 社債明細表に記載しております。

（3）【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日、6月30日、9月30日、12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(注) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社  無料
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載しております。 公告掲載URL <a href="http://www.hikari.co.jp/ir/ad.html">http://www.hikari.co.jp/ir/ad.html</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 株式等の取引に係る決済の合理化を図るための社債等の振替に関する法律等の一部を改正する法律(平成16年6月9日 法律第88号)の施行に伴い、単元未満株式の買取りを含む株式の取扱いは、原則として、証券会社等の口座管理機関を経由して行うこととなっております。ただし、特別口座に記録されている株式については、特別口座の口座管理機関である、みずほ信託銀行が直接取り扱っております。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

#### (1)有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第24期）（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）平成23年6月22日関東財務局長に提出。

#### (2)内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月22日関東財務局長に提出。

#### (3)四半期報告書及び確認書

（第25期第1四半期）（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）平成23年8月10日関東財務局長に提出。

（第25期第2四半期）（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）平成23年11月10日関東財務局長に提出。

（第25期第3四半期）（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）平成24年2月14日関東財務局長に提出。

#### (4)臨時報告書

平成23年6月22日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

平成24年6月22日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

#### (5)自己株券買付状況報告書

平成23年7月1日関東財務局長に提出。

平成23年8月2日関東財務局長に提出。

平成23年12月14日関東財務局長に提出。

平成24年1月13日関東財務局長に提出。

平成24年2月9日関東財務局長に提出。

平成24年3月15日関東財務局長に提出。

平成24年4月9日関東財務局長に提出。

平成24年5月8日関東財務局長に提出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6月22日

株式会社光通信

取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 台 祐二 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 塚原 克哲 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中村 太郎 印

#### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社光通信の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社光通信及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社光通信の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社光通信が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管している。

連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成24年 6月22日

株式会社光通信

取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 台 祐二 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 塚原 克哲 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中村 太郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社光通信の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第25期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社光通信の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管している。

財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。